

講義コード	1G900011
講義名	保健医療学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）松本健治
（土曜担当）笠松隆洋

目的

少子高齢化、生活環境の著しい変化により疾病構造は、ますます多様化かつ複雑化している。一方、医療技術の高度化により、保健・医療・福祉のサービスシステムは、多様化かつ高度化している。このような状況のもと、高度医療人の育成の必要性が高まっている。その基本資質として、保健医療分野での幅広い視野をもち、深い基礎医学知識を備えた医療人の育成をめざす。

到達目標

人々の心身の健康や疾病・障害を身体的、精神的、社会的側面で総合的に捉えるとともに、それらの問題に対して保健・医療・福祉の観点から社会学的にどのように対処するかを概説できる。

授業計画表

授業計画

1. 保健医療学の概念をめぐって
2. ライフスタイルと生涯を通じての健康（1）
3. ライフスタイルと生涯を通じての健康（2）
4. 環境・労働と健康
5. ヘルスプロモーションの概念をめぐって
6. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（1）
7. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（2）
8. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（3）
9. 医療・保健・福祉の動向（1）
10. 医療・保健・福祉の動向（2）
11. 医療・保健・福祉の動向（3）
12. 医療保険・介護保険制度
13. 国際保健
14. 保健・医療と関連法規
15. まとめ

成績の評価

授業への取り組み態度により評価する

自己学習

授業計画に沿って、参考図書等の関連領域を通読する。

参考資料

国民衛生の動向 厚生統計協会
国民の福祉の動向 厚生統計協会

オフィスアワー

授業時間の前後休憩時間

研究室・授業用E-mail

講師控室

講義コード	1G901011
講義名	医療倫理学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）武田眞太郎
（土曜担当）池田裕明

目的

病苦からの解放を目指す医療は、倫理に対する最強の実践的手段であった。しかし、毒ガスや生物兵器、生体実験などが社会問題となり、生体実験を告発した「ニュルンベルグ綱領」に端を発した生命倫理の課題は、医療の場における「患者の権利と義務」や「先進医療の在り方」などへと広がった。こうした中で、医療関係者一人ひとりが、妥当な価値観を形成し、発展させる能力を身につけることが求められている。

到達目標

現実に、一方に善である医療技術が、他方には悪になる場面がある。しかも、価値観を客観的に統一することは困難である。これには、学際的な対応が必要で、次の4領域での対応が求められる。①理論的な生命倫理の領域 ②日々の医療行為における道徳的な判断にかかわる領域 ③理論と具体例への判断とをつなぐ法律や倫理指針、政策などを考える領域 ④歴史的、文化的な流れから理解しようとする領域。そこで本概論では、とくに②と③の領域について、医療関係者の専門的判断と患者の判断をどう調整するか、治療の有効性と患者の自己決定が相反した時の対応などの視点も加味して、自らで判断できる基礎的能力を身につけるよう努める。

授業計画表

授業計画

1. 医療法にみられる基本理念、「生命の尊重」と「個人の尊厳の保持」をめぐって
2. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の基本的な考え
3. インドでの「代理出産」と生まれてくる「子どもの権利」
4. 「卵子提供」による不妊治療の実態と子どもの「出自を知る権利」
5. 万波医師の「病気腎移植」— 治療研究の進め方、倫理審査委員会の役割
6. 射水市民病院「呼吸器外し」事件— 倫理審査委員会の役割
7. 川崎協同病院「安楽死」事件— チーム医療を考える
8. アメリカでの「タスキギー梅毒人体実験」とベルモント三原則
9. 「エホバの証人」の輸血拒否— インホームド・コンセントの限界
10. 「赤ちゃんポスト」の功罪と社会福祉の在り方
11. 堺市の「全盲患者置き去り」事件— 保健医療福祉制度のかかわり
12. 医師による「移植臓器の売買」— 臓器移植法とのかかわり
13. 「大野病院事件」— 医療と司法の立場
14. 医薬品ネット販売解禁をめぐって— 国民の生命を守る立場から
15. 「国家戦略特区」の中での医療と倫理

成績の評価

毎回の受講態度、討議内容およびレポートについて総合評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

毎回の授業の最後にフィードバックする。

自己学習

生命倫理にかかわる社会的諸問題に関心を持ち、自己の価値観によって判断するよう心がける。そのためには、自己の価値観をより妥当なものに磨き上げるよう、日々の生活の中で関係領域の専門家の論述に触れて、自己の価値観との照合に心がける。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

とくに設定しないので、希望があれば、事前に予約すること。

講義コード	1G902011
講義名	疫学・保健統計学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）坂口 俊二・近藤 哲哉・山本 博司
（土曜担当）近藤 弘

目的

現代医学は、高度先進医療として確固たる科学的基盤を持ち、疾病の原因追究やリスクの集団的管理は疫学的手法により、また、医療効果の判定はEBM（evidence-based medicine）に基づいてなされている。本講義では、エビデンスの中心となる疫学・保健統計学の基礎を学び、保健医療従事者として必要な疫学的思考、臨床効果の判定や実験計画の作成などの統計的手法が身に付くよう指導する。

到達目標

- ・疫学・統計学の基礎を身につける。
- ・医療分野における研究論文を読み、その内容について批判的吟味ができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 疫学とは（近藤）
2. 研究のデザインと因果関係（近藤）
3. 記述疫学・分析疫学・実験疫学（近藤）
4. 因果関係の判定基準（近藤）
5. 結果変数の種類・疫学調査における誤差（近藤）
6. EBMとその実践（坂口）
7. 医療系研究論文の読み方（坂口）
8. 臨床研究・疫学研究のための国際的指針（坂口）
9. 論文のまとめ方①（坂口）
10. 論文のまとめ方②（坂口）
11. 統計学と推計学（山本）
12. 代表値と統計量（山本）
13. 正規分布と標準偏差（山本）
14. 正規分布する二つの集団の平均値の比較（山本）
15. 統計学的検定（山本）

成績の評価

各担当教員からのレポート課題もしくは試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート、試験の解説を実施する。

テキスト

テキストは指定せず、プリントなどを配布する。

参考資料

「NEW予防医学・公衆衛生学」(南江堂)

「疫学マニュアル」(南山堂)

オフィスアワー

水曜日12:00~13:00(坂口)

月曜日9:00~12:00(近藤)

月・水曜日12:00~13:00(山本)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp(坂口)

診療・研究棟3階303研究室・kondo0724538409@kansai.ac.jp(近藤)

診療・研究棟3階312研究室・yamamoto@kansai.ac.jp(山本)

講義コード	1G908011
講義名	臨床鍼灸学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二(鍼灸師)・若山 育郎・王 財源(鍼灸師)・山本 博司(鍼灸師)・谷 万喜子(鍼灸師)・木村 研一(鍼灸師)

目的

本科目では、高度な鍼灸臨床能力を身に付けるため、本学附属診療所の医師により鍼灸治療の適応であると判断された外来患者を対象として、附属鍼灸治療所において鍼灸師である指導教員の下で実習を行う。

到達目標

教員の治療のシミュレーションとともに、自分自身で治療法の想定ができる。指示されたところへ鍼灸が施術できる。

授業計画表

授業計画

鍼灸臨床の一連の流れとともに、以下の点を重視して実習を行う。

1. 医療面接の実施
2. 東洋医学的な診察・診断法の修得
3. 鍼灸治療のシミュレーション（配穴を中心とする）
4. 鍼および灸による治療実践（有害事象への対応含む）
5. 治療の効果・判定
6. 診療録の記載

成績の評価

臨床技術（実習に臨む姿勢も含む）、レポート課題などで総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

テキスト

テキストは特に指定せず、参考資料は適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:00~13:00（坂口）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

講義コード	1G909011
講義名	臨床身体機能学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]・谷埜予士次[理学療法士]・米田 浩久[理学療法士]

目的

身体運動をより深く理解するために、関西医療大学附属診療所 リハビリテーション科において運動療法実習を実施する。運動療法をおこなう疾患には、運動器障害、神経障害、内部障害など多岐にわたる。本実習では、特に運動器障害、神経障害を呈する疾患の理学療法を中心に実習する。具体的には、健常者の身体機能と患者の身体機能の違いを、治療者による動作観察・分析によって明らかにできることを目標とする。患者様の動作特徴を明確にすることで患者様の問題点を把握することができるため、次の段階として、その問題点に対応した理学療法を学ぶ。理学療法に関しては、様々なアプローチを実習するが、本学独自のアプローチである臨床動作促進法、経穴刺激理学療法の臨床応用を経験することによって、患者様への治療効果を確認する。

到達目標

実習を通して、身体運動の評価、運動療法を的確に行えることを目標にする。

授業計画表

授業計画

- 1 身体機能の動作観察・分析実習 1
- 2 身体機能の動作観察・分析実習 2
- 3 身体機能の動作観察・分析実習 3
- 4 身体機能の動作観察・分析実習 4
- 5 身体機能の動作観察・分析実習 5
- 6 身体機能に対する運動療法実習 1
- 7 身体機能に対する運動療法実習 2
- 6 身体機能に対する運動療法実習 3
- 7 身体機能に対する運動療法実習 4
- 8 身体機能に対する運動療法実習 5
- 9 身体機能に対する運動療法の効果・判定 1
- 10 身体機能に対する運動療法の効果・判定 2
- 11 身体機能に対する運動療法の効果・判定 3
- 12 身体機能の評価、運動療法、効果判定に関するプレゼンテーション 1
- 13 身体機能の評価、運動療法、効果判定に関するプレゼンテーション 2
- 14 身体機能の評価、運動療法、効果判定に関するプレゼンテーション 3
- 15 総合実習

成績の評価

実習における総合評価（評価能力、治療技術、効果判定能力など）で判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習での技能評価に関してフィードバックする。

自己学習

動作分析が中心となる実習であるため、解剖学、運動学の知識を再度確認してほしい。

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

月曜日：12：15～13：00（谷埜）

火曜日：12：15～13：00（米田）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

4号館 7階 D723研究室（谷埜）

4号館 7階 D722研究室（米田）

講義コード	1G924011
講義名	機能形態学①
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 深澤 洋滋	指定なし

目的

多細胞生物が示す生命現象は、身体を構成する細胞の営みを基礎として成り立っている。細胞内では多様な細胞小器官が相互に連携して精緻で合理的な仕組みをつくり出しており、それら細胞が集まり組織を形成し、組織が集まることで器官を構成することにより、我々の多彩な身体活動が維持されている。そこで、本講義では、細胞から組織、器官へと高次元に構築されてゆく身体活動に関する見識を深めるため、ミクロからマクロまでの形態を通じて営まれるそれらの多様な機能の相互関係について理解を深めていく。

身体の中でもとりわけ特徴的な消化器系、内分泌系、神経系についてミクロからマクロまでの形態的特徴を理解しその機能について考察する。さらに、これら機能の障害により引き起こされる疾患についても機能形態学的な視野から考察を深めることが出来るようにする。

本講義において、生体を構成する細胞・組織・器官の形態と機能という多角的な視点から生命現象を考察することで、生命のあり方に関する受講生の視野を拡げることを目的とする。

到達目標

1. 生命現象の基となる細胞の構造と機能について基礎的な知識が身についている。
2. 組織と器官の機能と形態の間にある関連性について深く理解している。

授業計画表

授業計画

1. 消化器系 機能と構造①
2. 消化器系 機能と構造②
3. 消化器系 機能と構造③
4. 消化器系 機能と構造④
5. 消化器系 機能と構造⑤
6. 内分泌系 機能と構造①
7. 内分泌系 機能と構造②
8. 内分泌系 機能と構造③
9. 内分泌系 機能と構造④
10. 内分泌系 機能と構造⑤
11. 神経系 機能と構造①
12. 神経系 機能と構造②
13. 神経系 機能と構造③
14. 神経系 機能と構造④
15. 神経系 機能と構造⑤

成績の評価

授業で求める課題の提出（80%）、授業参加への主体性（20%）に基づき、総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、レポートを開示します。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。毎回の授業で資料を配付する。

参考資料

- 『標準細胞生物学』（医学書院）
- 『人体の正常構造と機能』（日本医事新報社）
- 『人体組織学』（南江堂）
- 『日本人体解剖学』（南山堂）

オフィスアワー

毎週木曜日 12:30～13:00

（事前に下記のメールアドレスに連絡頂ければ、他の時間帯・曜日でも対応可能）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室

fukazawa@kanasi.ac.jp

講義コード	1G924012
講義名	機能形態学②
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 基礎領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 矢野 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

矢野 恵子[臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士、二級病理技術士(病理学)]

目的

疾病発生の機序を臓器ごとに学習し、研究に必要な知識を得る。

到達目標

各臓器の代表的な疾患の成り立ちと病理学的背景を理解する。

授業計画表

授業計画

循環器疾患、呼吸器疾患、消火器疾患、内分泌疾患、泌尿器疾患、生殖器疾患、乳腺疾患、造血器疾患、神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患、皮膚疾患などの疾病の成り立ちと病理学的背景について解説する。

成績の評価

定期試験の成績で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分) 相当の予習、復習を行うこと。

テキスト

「臨床検査講座 病理学/病理検査学」 (医歯薬出版)

参考資料

「なるほどなっとく!病理学」 (南江堂)

オフィスアワー

木曜日 13:30~13:00

研究室・授業用E-mail

2号館専任教員室A
yano@kansai.ac.jp

講義コード	1G925011
講義名	生体情報学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 櫻葉 均	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当） 櫻葉 均
（土曜担当） 大瀧博文

目的

病院やクリニックを訪れる患者の多くは痛みを訴える。これらの患者にとって痛みは深刻で複雑な問題であり、このことは様々な医療分野において共通していることである。コメディカルスタッフのリーダーとして、あるいはこの分野で研究を志す者として、痛覚の本質を正しく理解し、未知の領域の痛みを洞察する力を養うことは重要である。現在、生理的な痛みの理解は進んできたが、病的な痛みである慢性痛の研究は発展途上の段階である。この生体情報学概論の授業では、痛みの一般的性質や生理学的意義、神経系における痛みの受容や伝達の仕組みについて講述する。

到達目標

適宜、資料を配付するので、その内容について理解することを目標にして下さい。

授業計画表

授業計画

1. 痛み研究の歴史
2. 痛みの一般的性質
3. 生理的な痛みと病的な痛み
4. 痛みの感覚的側面と情動的側面
5. 急性痛と慢性痛
6. 体性痛と内臓痛
7. 侵害刺激と非侵害刺激
8. 侵害受容ニューロン
9. ポリモーダル侵害受容器
10. 痛みの伝導路と痛みの認知・学習
11. 神経因性疼痛
12. 内因性鎮痛機構 a.オピオイドペプチド
13. 内因性鎮痛機構 b.下行性疼痛抑制系
14. 内因性鎮痛機構 c.その他の鎮痛機構
15. 総括

成績の評価

口頭試問100%にて評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

配付した資料を十分に読み込んで、理解することが重要です。
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行って下さい。

テキスト

適宜、授業中にプリント等を配布する。特別なテキストは使用しない。

参考資料

「カンデル神経科学」 Eric R. Kandel 他編、メディカル・サイエンス・インターナショナル

オフィスアワー

月曜日の12:10～13:10。

研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室kashiba@kansai.ac.jp（榎葉）

管理棟2階207室ohtaki@kansai.ac.jp（大瀧）

講義コード	1G926011
講義名	病態情報学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	病態情報学概論
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）畑村育次（医師）・伊藤俊治
（土曜担当）上田一仁

目的

病気には必ず因果関係が存在しており、その疾病の発症におけるメカニズムは昨今分子生物学的手法や分子病理学的手法を用いて解明されつつある。生体における生命現象は化学反応と細胞活動による情報処理であって、そこには単純な因果関係の連鎖へ還元される「メカニズム」すなわち「論理」が存在する。この「論理」を明徴にすることで疾病の治療や予防に大きく寄与することができる。本講においては、医療系英語論文をもとに、どのように「論理」を、どのような証拠をもとに解き明かそうとしているのかを考え、研究者として物事の「論理」を考える基礎能力を養成することを目的とする。

到達目標

授業を通じて自分が行おうと考えている研究が、論文等でノイエス(neues)どうか検索し、研究計画をたて実験を行い、最終的に英語論文にまとめることを目標とする

授業計画表

授業計画

毎講義担当者をきめて研究の紹介・発表・テーマ論文等の発表と討論を行う。発表のためのプレゼンテーションの作製、実施、論文検索および読解の方法の習得ができるように指導する
また研究者としての心構え、論文作成のための基礎的なルール、および実験ノートの重要性やそのつけ方等を授業の中で指導を行う。

成績の評価

各教員の講義において、レポートや出席および発表状況で評価し、総合的に判断する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後解説をおこなう

自己学習

当然英語の勉強が必要である。自宅では実験にあたる前に、事前の研究計画が必要であり、論文に基づいて実験ノートを作成しあらかじめ何をおこなうかシュミレーションすることが必要となる。自己学習時間については授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

適宜英語論文をわたします

参考資料
自分が研究する分野の英語論文全般
オフィスアワー
木曜日 12:00-13:00
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階402研究室i-hatamura@kansai.ac.jp (畑村) 診療・研究棟4階407研究室itohshun@kansai.ac.jp (伊藤) 2号館2階専任教員室Bueda@kansai.ac.jp (上田)

講義コード	1G927011
講義名	内科系病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）津田 和志（医師）、畑村 育次（医師）、紀平 為子（医師）
（土曜担当）上田 一仁、大瀧 博文

目的

我が国では高齢社会の中で、肥満、糖尿病、高血圧などを合併するメタボリックシンドロームや加齢に伴うアルツハイマー病、パーキンソン病など老年期疾患が急増し、一方では、分子生物学的手法による各種疾患の原因遺伝子の同定、メタボリックシンドロームにおける各種ホルモンの発見、脳の老化への酸化ストレスやアミロイド沈着の関与など新しい知見が日々集積されている。本講では、そうした現代医学的知識を基盤に保健医療人として、患者に対する治療手技の適否を判断できる能力や研究者としての基礎能力を養成することを目的とする。

到達目標

各種疾患の病態を的確に理解する総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

授業計画表

授業計画

以下の項目についてオムニバス方式で自主的な文献検索と発表による討論形式、ならびに抄読会形式で講義を進める。基本的な講義内容を下記に示すが、さらに発展的な内容になることもある。

第1～10講：慢性腎不全を誘発する要因、すなわち高血糖、高血圧、高脂血症がどのように腎臓機能および組織に影響を及ぼし、どのような機序で腎不全となるのか

第11～15講：上記した老年期変性疾患の神経病理、病態および最近の分子生物学的知見について

成績の評価

各教員の講義において、試験、レポート、出席状況等を評価し、総合的に判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

講義内で説明する。

自己学習

指定されたテーマや抄読する論文についてよく予習しておくこと。

テキスト

プリントや関連領域の文献等を適時配布する。

参考資料

講義内容に応じて、その都度指定する。

オフィスアワー

各々の教員に事前連絡し、日程を調整すること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階405号室tsudak@kansai.ac.jp (津田)

診療・研究棟4階402号室i-hatamura@kansai.ac.jp (畑村)

診療・研究棟4階408号室tkihira815@kansai.ac.jp (紀平)

2号館2階専任教員室Bueda@kansai.ac.jp (上田)

管理棟2階207号室ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	1G928011
講義名	内科系病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（月曜担当）津田 和志（医師）、畑村 育次（医師）、紀平 為子（医師）
（土曜担当）近藤 弘、竹田 知広

目的

我が国では高齢社会の中で、肥満、糖尿病、高血圧などを合併するメタボリックシンドロームや加齢に伴うアルツハイマー病、パーキンソン病など老年期疾患が急増し、一方では、分子生物学的手法による各種疾患の原因遺伝子の同定、メタボリックシンドロームにおける各種ホルモンの発見、脳の老化への酸化ストレスやアミロイド沈着の関与など新しい知見が日々集積されている。本講では、そうした現代医学的知識を基盤に保健医療人として、患者に対する治療手技の適否を判断できる能力や研究者としての基礎能力を養成することを目的とする。

到達目標

各種疾患の病態を的確に理解する総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

授業計画表

授業計画

以下の項目についてオムニバス方式で自主的な文献検索と発表による討論形式、ならびに抄読会形式で講義を進める。基本的な講義内容を下記に示すが、さらに発展的な内容になることもある。

第1～5講：上記した老年期変性疾患の神経病理、病態および最近の分子生物学的知見について

第6-15講：肥満、高血圧などを合併するメタボリックシンドロームの病態生理と肥満関連内分泌因子による調節機構について

成績の評価

各教員の講義において、試験、レポート、出席状況等を評価し、総合的に判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

講義内で説明する。

自己学習

指定されたテーマや抄読する論文についてよく予習しておくこと。

テキスト

プリントや関連領域の文献等を適時配布する。

参考資料

講義内容に応じて、その都度指定する。

オフィスアワー

各々の教員に事前連絡し、日程を調整すること。

研究室・授業用E-mail

405・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	1G929011
講義名	高次神経病態学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

郭 哲次（医師）

近藤 弘

目的

ひとの高次脳神経のふるまいを扱う医学の領域は、主に精神現象の病態を対象とし、他の身体医学の諸分野と臨床医学を二分する重要な分野である。身体医学が、主に客観的に把握可能な身体面の現象を扱うのに対し、精神現象を扱う精神医学は、その症状の把握の仕方、疾患概念、診断・治療方法など患者に対するアプローチが異なる。さらに心身医学は精神の働きである心と身体の相互の成り立ちを双方向性にとらえる包括的臨床医学の基礎をなす分野である。心身医学的立場では、神経・内分泌系や免疫系などのストレスに対するダイナミックな応答として、社会環境を基盤とした心身関連の側面から病態をとらえることができる。

到達目標

こうした心身医学および精神医学的立場から、個々の心身症や精神疾患の病態に対する理解を深め、様々な疾患の包括的・全人的なとらえ方を学習し、その知識を人間の心身の営みの深い理解に活用できることが目標である。

授業計画表

授業計画

- A. 精神の病気を扱う医学
 1. 精神医学の捉え方
 2. 精神疾患の診断と検査
- B. 精神症状とその発現
 3. 抑うつ
 4. 幻覚・妄想
 5. 不安・強迫・転換・解離、身体化
- C. 身体に起因する精神障害
 6. 内科疾患等による精神障害
 7. 脳の疾患による精神障害
8. 脳の疾患による精神障害Ⅱ
9. 依存物質による精神障害
- D. 健常範囲内の人々の行動パターンと疾病による精神異常
 10. 性格を基盤とした行動パターンの偏り
11. 疾病を基盤とした行動パターンの偏り
- E. 12. 心身相関について
- F. 13. 精神医学的側面を基盤とした研究の分野
- G. 14. 精神と行動を調べる道具としての精神生理学的手法
- H. 15. まとめ

成績の評価

授業態度と最終レポートにより評価する（授業への取り組み度20%、レポート80%）

なお、授業への取り組み度は発表の内容・方法、学習に対する態度、授業中の発言を総合評価す

る。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験あるいはレポート提出後、解説を実施する

自己学習

毎回、綿密な予習、復習を行うこと（授業1コマにつき2コマ（180分）相当）

テキスト

テキストは用いない。参考資料は適宜紹介

参考資料

「現代臨床精神医学（改訂第11版）」大熊輝雄著（金原出版）、「心身医学標準テキスト第2版」久保千春 編集（医学書院）、「臨床脳波学 第5版」大熊輝雄著（医学書院）

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間（原則として予約が必要）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室、tkaku@kansai.jp 郭 哲次

講義コード	1G930011
講義名	外科系病態学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	
必修/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

金井成行（医師）
 小河健一（医師）
 近藤 弘

目的

外科疾患全般に対する漢方薬の知識の修得
 小河：論文を読むときの着眼点を学修する。また、他人に伝わる発表を学修する。
 どの分野にかかわっても、必ずといっていいほど経験する糖尿病について理解し、緊急時に初期対応できるようになる。

到達目標

漢方薬の知識を持った外科医と同等レベルの修得
 小河：大学院生として必要な論文収集や発表のスキルを修得する。
 糖尿病患者に安全な運動指導を行える知識を身につける。糖尿病患者の低血糖に対応できるようになる。

授業計画表

授業計画

夏季休暇中に集中講義

1. 漢方薬とは
2. 整形外科疾患に対する漢方薬
3. 婦人科疾患に対する漢方薬
4. 脳外科疾患に対する漢方薬
5. 外科疾患に対する漢方薬
6. 外科疾患に対する漢方薬
7. 泌尿器・眼科・耳鼻科疾患に対する漢方薬
8. まとめ

小河：糖尿病についての理解と、低血糖時の対処法や運動時の注意などを学修する。
 その他の内容については履修する院生の専門分野を考慮し、院生と相談する。

成績の評価

成績評価の配分は、金井担当分は試験40%、レポート10%、小テスト10%で、小河担当分は試験もしくはレポート（院生と相談）40%とする。

自己学習

漢方薬の名前と効能の予習

小河：論文：図、表から自分なりの解釈を行う。他人に物事を伝えるためのプリントやスライドを作成する。

糖尿病についての基礎知識を学習しておく。

オフィスアワー

金井・小河：月曜：12:00-12:45

木曜：12:00-12:45

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡をお願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

診療研究棟409研究室

kanai@kansai.ac.jp (金井)

小河：診療・研究棟3階 309研究室

ogawa@kansai.ac.jp

講義コード	1G931011
講義名	東洋医学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王財源（鍼師・灸師）

目的

本講義では、古代中国哲学と医学の融合により形成された、伝統医学に脈打つ東洋医学の身体観を学ぶ。その特徴の一つに「気」の思想があり、その底辺には「気」による養生観が滔々と流れている。それらを『黄帝内経』『傷寒論』『金匱要略』より考察したい。そこにみえる人体に本源的に備わる生命への尊厳性と、東洋医学の本質について、具体的な文献を挙げながら講義を進める。

とくに蔵象（蔵府学説）は『黄帝内経』独自の生理学、病理学、養生学および治療学を論じられ、現在の漢方や鍼灸学の礎を築いた。また、東洋医学の萌芽期から成熟期には、古代諸子百家が深く関わり、道家のもつ哲学観は「気」の思想を背景に、伝統医学の身体論に対して強い影響を与えた。したがって、道家医学を否定して伝統医学を論ずることはできないのである。よって、東アジアにおける伝統医療文化を多角的な視点で学ぶことを目的に、哲学を基盤とする伝統医学の専門性を学び、より深く伝統医療について深く理解することを目的とする。

到達目標

中国伝統医学を基礎として発展した東洋医学の身体観を身につけ、専門化された学問の源流をたどることで、各人の身体に対する世界観を問い直し、個々の事象を統合的に学ぶ力を鍛え、哲学を基盤とする身体観を備えた、東洋医学観を示唆できる医療家の育成を指導目標に置きたい。

授業計画表

授業計画

各学科共通で中国伝統医学書『重廣補注黄帝内経素問』（顧從徳影宋刻二十四卷本）に載る長生思想を基礎として、「気血」「蔵象」「経絡」などの伝統医学に学ぶ人体の構造や、伝統医学的な診断システムを中心に、その周辺の医書を含めた授業を進める。

参考にまで下記に履修文献の一部を列記する。

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 1. 上古天真論第一 | 9. 脉要精微論第十七 |
| 2. 四気調神大論第二 | 10. 経脈別論第二十一 |
| 3. 生氣通天論第三 | 11. 蔵気法時論第二十二 |
| 4. 陰陽応象大論第五 | 12. 宣明五気篇第二十三 |
| 5. 靈蘭秘典論第八 | 13. 血気形志篇第二十四 |
| 6. 六節蔵象大論第九 | 14. 宝命全形論第二十五 |
| 7. 五蔵生成篇第十 | 15. 『傷寒論』と『金匱要略』 |
| 8. 五蔵別論第十一 | ※ 授業の進捗状況により順番が前後することがある。 |

成績の評価

レポート(60%)と発表会(40%)などを鑑みて総合的な評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。
2. 定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

1. 本講義以外の資料も念頭に置いて、講義を受けるようにすること。
2. 講義内容の進捗状況に準じて、研究室及び他大学の図書室を使用すること。
3. より専門的な知識が学べるように、他大学との討論会にも積極的に参加する。
4. 授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

授業中に適宜指示する。

参考資料

- 『中国古典を読むはじめの一步』(集広舎)
- 『中国医書の文献学的研究』(汲古書院)
- 『黄帝内経素問訳注』(医道の日本社)
- 『図説中医学史』(広西科学技術出版社)
- 『わかりやすい臨床中医臓腑学』第3版(医歯薬出版)
- 『わかりやすい臨床中医診断学』第2版(医歯薬出版)
- 『わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング』第2版(医歯薬出版)

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

面談時には事前にメールで連絡してください。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室

cai@kansai.ac.jp

講義コード	1G932011
講義名	補完・代替医療学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

紀平為子 [医師]、百合邦子 [はり師きゅう師]、池藤仁美 [はり師きゅう師]、吉田宗平 [医師]、川西秀一 [はり師きゅう師、柔道整復師]、近藤哲哉 [医師]

目的

日本補完代替医療学会では、「代替医学・医療とは現代西洋医学領域において、科学的未検証および臨床未応用の医学・医療体系の総称」と定義されている。本大学では、鍼灸、柔道整復・ヘルスプロモーション、リハビリテーション、臨床検査、看護など補完代替医療を含めた広汎な領域で医療の実践と研究を行っている。臨床現場では、スポーツ選手から高齢者まで様々な方々を対象としており、その有効性も実証されつつあるが、しかし、その作用機序の解明は今後の課題でもある。超高齢社会に突入した日本では、健康で自立した長寿のために予防医学的介入が求められている。補完代替医療では日常的に実施できる疾病予防の手だてを提供する事ができると考えられる。

到達目標

補完代替医療の歴史、種類、医療の中の位置づけと今後の課題について学習する。

授業計画表

授業計画

- (1) 総論 (紀平)
- (2) 栄養補助食品 (紀平)
- (3) メガビタミン療法 (紀平)
- (4) ハーブ療法 (百合)
- (5) アロマセラピー[1] (百合)
- (6) アロマセラピー[2] (百合)
- (7) カイロプラクティック[1] (池藤)
- (8) カイロプラクティック[2] (池藤)
- (9) 虹彩診断[1] (中吉)
- (10) 虹彩診断[2] (中吉)
- (11) 自律訓練 (近藤)
- (12) 漢方(方証相對)[1] (特別講師/近藤)
- (13) 耳針の基礎と方法—神経学的アプローチ (吉田学長)
- (14) 耳針の臨床 (吉田学長)
- (15) 漢方(方証相對)[2] (特別講師/近藤)

成績の評価

筆記試験またはレポート課題と受講態度を重視します。
レポートでは自らの診療において、講義内容をどのように活かすかについてまとめること。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示します。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

講義中に紹介します。

参考資料

講義中に紹介します。

オフィスアワー

教員により異なるので、講義中に確認を要します。

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階408研究室、tkihira815@kansai.ac.jp (紀平)、

診療研究棟3階教員室、yuri@kansai.ac.jp (百合)、

診療研究棟3階教員室、ikefuji@kansai.ac.jp (池藤)

診療研究棟4階414研究室、nakayosi@kansai.ac.jp (中吉)

学長室、yoshida@kansai.ac.jp (吉田学長)、

診療研究棟3階303研究室、kondo0724538409@kansai.ac.jp(近藤、特別講師)(特別講師への質問は近藤が取り次ぎます)

講義コード	2G933011
講義名	臨床鍼灸学研究計画法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二(鍼灸師)・戸村 多郎(鍼灸師)

目的

本講義では鍼灸の臨床研究のデザインや、統計手法について実際の研究論文をもとに学修し、修士論文の作成にあたって必要な知識や能力を養成することを目的とする。

到達目標

大学院での研究の土台となる研究計画の立て方や実際の研究手法を身につけることを目指す。

授業計画表

授業計画

1. 鍼灸臨床研究における倫理（坂口）
2. 鍼灸臨床研究のデザイン(1)（坂口）
3. 鍼灸臨床研究のデザイン(2)（坂口）
4. CONSORT声明とSTRICTA（坂口）
5. ランダム化比較試験論文の批評（坂口）
6. ランダム化比較試験の研究計画（1）（坂口）
7. ランダム化比較試験の研究計画（2）（坂口）
8. 社会医学における調査研究（戸村）
9. 調査結果の評価方法（戸村）
10. 臨床研究における評価尺度の必要性（戸村）
11. 評価尺度作成概論（戸村）
12. 評価尺度の作成技術（戸村）
13. 研究結果の論文化（戸村）
14. 研究論文の発表技法(1)（戸村）
15. 研究論文の発表技法(2)（戸村）

成績の評価

各教員の講義において、レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

テキスト

特に指定せず、プリントや関連領域の文献などを用いる。

オフィスアワー

水曜日12：00～13：00（坂口）

火～木曜日12：10～12：40（戸村）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

診療・研究棟4階407研究室・tomura@kansai.ac.jp（戸村）

講義コード	2G934011
講義名	臨床鍼灸学研究方法論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 研一(鍼灸師) 伊藤 俊治

目的

本講義では鍼灸の基礎研究の様々な方法論について実際の研究論文を基に学修し、修士論文の作成にあたって必要な知識や能力を養成することを目的とする。

到達目標

大学院での研究の土台となる研究計画の立て方や実際の研究手法を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 鍼灸刺激とポリモーダル受容器仮説(1) (木村)
2. 鍼灸刺激とポリモーダル受容器仮説(2) (木村)
3. 硬結の成因(木村)
4. 物理療法と筋交感神経活動(木村)
5. 鍼灸刺激と体性内臓反射 (1) (木村)
6. 鍼灸刺激と体性内臓反射 (2) (木村)
7. 鍼灸刺激が心拍数や血圧に及ぼす影響(木村)
8. 鍼灸刺激と血流改善(木村)
9. 分子生物学的研究の原理と実際 (1) (伊藤)
10. 分子生物学的研究の原理と実際 (2) (伊藤)
11. 細胞生物学と培養細胞を使った解析 (1) (伊藤)
12. 細胞生物学と培養細胞を使った解析 (2) (伊藤)
13. 動物個体を使った実験と組織学的研究 (1) (伊藤)
14. 動物個体を使った実験と組織学的研究 (2) (伊藤)
15. データの取り扱いとシステム生物学 (伊藤)

成績の評価

各教員の講義において、レポートや出席状況で評価する。

自己学習

各講義を通じて自身が興味をもったことやキーワードについて図書館や検索ツールを用いて知識を深めること。

テキスト

特に指定せず、プリントや関連領域の文献などを用いる。

参考資料

逐次紹介する。

オフィスアワー

火曜日(12:00～13:00) (木村)

金曜以外随時、事前の連絡を勧める (伊藤)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室k.kimura@kansai.ac.jp(木村)

診療・研究棟4階407研究室itohshun@kansai.ac.jp (伊藤)

講義コード	2G935011
講義名	臨床鍼灸学特論講義
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二(鍼灸師)・谷 万喜子(鍼灸師)・木村 研一(鍼灸師)

目的

本講義では、鍼灸臨床で対象とする疾患・症状について、臨床研究の成果（エビデンス）、具体的な治療法や評価法などを講義する。今後の鍼灸臨床および臨床研究に有益な情報を提供していく。

到達目標

項目に挙げた疾患・症状に対する鍼灸治療のエビデンスについて説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 神経疾患への鍼治療概論（谷）
2. 神経疾患への鍼治療の現在①（谷）
3. 神経疾患への鍼治療の現在②（谷）
4. ジストニアに対する鍼治療効果①（谷）
5. ジストニアに対する鍼治療効果②（谷）
6. 鍼灸におけるエビデンスについて（木村）
7. 研究デザインについて（木村）
8. 高血圧に対する鍼灸治療効果（木村）
9. 肩こりに対する鍼灸治療効果（木村）
10. 血流や自律神経に対する鍼灸治療の影響（木村）
11. 頭痛に対する鍼灸治療効果（坂口）
12. 末梢性顔面神経麻痺に対する鍼灸治療効果（坂口）
13. 腰痛に対する鍼灸治療効果（坂口）
14. 末梢循環障害に対する鍼灸治療効果（坂口）
15. 症例研究から探る鍼灸治療の適応症（坂口）

成績の評価

レポート、課題発表などから総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。課題発表後の採点結果を開示する。

テキスト

テキストは特に指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:00~13:00 (坂口)

月曜日 12:00~13:00 (谷)

水曜日 12:00~13:00 (木村)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

診療・研究棟3階307研究室・tani@kansai.ac.jp (谷)

診療・研究棟3階414研究室・k.kimura@kansai.ac.jp (木村)

講義コード	2G936011							
講義名	臨床鍼灸学特論演習							
講義開講時期	前期							
講義区分	演習							
基準単位数	2							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年								
必修/選択								
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 若山 育郎</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 若山 育郎	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 若山 育郎	指定なし						
担当教員（実務経験を有する資格）								
若山育郎（医師）								
目的								
鍼灸のEBMについて理解する								
到達目標								
論文を読んで構造化抄録を作成できる								
授業計画表								
授業計画								
鍼灸の臨床研究論文を読んで構造化抄録を作成する 作成した構造化抄録について検討する								
成績の評価								
日頃の成果で評価する								
自己学習								
臨床研究論文を読んで構造化抄録を作成すること								
テキスト								
特に指定しない								
参考資料								
特に指定しない								
オフィスアワー								
火曜・水曜 12:30-13:30								
研究室・授業用E-mail								
1号館205研究室 wakayama@kansai.ac.jp								

講義コード	2G937011
講義名	臨床身体機能学研究計画法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]、金井 成行[医師]、五十嵐 純、谷埜予士次[理学療法士]、米田 浩久[理学療法士]

目的

身体機能学研究を行うために必要な一般的な知識を習得する。また、学生が興味ある研究内容の研究計画を立案するための必要な知識を習得する。

到達目標

身体機能学研究の研究計画を自ら立案できる。

授業計画表

授業計画

- 1 身体機能学研究の研究計画の立案方法 1
- 2 身体機能学研究の研究計画の立案方法 2
- 3 身体機能学研究の研究計画の立案方法 3
- 4 身体機能学研究の研究計画の立案方法 4
- 5 身体機能学研究の研究計画の立案方法 5
- 6 身体機能学研究でのデータのまとめ方 1
- 7 身体機能学研究でのデータのまとめ方 2
- 8 身体機能学研究でのデータのまとめ方 3
- 9 身体機能学研究でのデータのまとめ方 4
- 10 身体機能学研究でのデータのまとめ方 5
- 11 身体機能学研究でのデータの解釈方法 1
- 12 身体機能学研究でのデータの解釈方法 2
- 13 身体機能学研究でのデータの解釈方法 3
- 14 身体機能学研究でのデータの解釈方法 4
- 15 身体機能学研究でのデータの解釈方法 5
- 16 身体機能学研究での発表の仕方、論文の作成方法 1
- 17 身体機能学研究での発表の仕方、論文の作成方法 2
- 18 身体機能学研究での発表の仕方、論文の作成方法 3
- 19 身体機能学研究での発表の仕方、論文の作成方法 4
- 20 身体機能学研究での発表の仕方、論文の作成方法 5
- 21 研究計画発表 1
- 22 研究計画発表 2
- 23 研究計画発表 3
- 24 研究計画発表 4
- 25 研究計画発表 5

26～30 まとめ

成績の評価

学生の研究計画に関するプレゼンテーションの内容で判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

研究計画に関するプレゼンテーションに関するフィードバックをおこなう。

自己学習

データの解釈には、統計学的な知識が必要になるため、各自勉強しておくこと。

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

月曜日：12：30～13：00（金井）

木曜日：12：30～13：00（五十嵐）

月曜日：12：15～13：00（谷埜）

火曜日：12：15～13：00（米田）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

診療・研究棟4階409研究室（金井）

診療・研究棟4階401研究室（五十嵐）

4号館 7階 D723研究室（谷埜）

4号館 7階 D722研究室（米田）

講義コード	2G938011
講義名	臨床身体機能学研究方法論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士] ・ 金井 成行 [医師] ・ 五十嵐 純 ・ 谷埜予士次[理学療法士] ・ 米田 浩久[理学療法士]

目的

身体機能学研究を行うために具体的な方法論を習得する。また、学生が興味ある研究内容の具体的な研究方法を立案するための必要な知識を習得する。

授業計画表

授業計画

- 1 身体機能学研究の研究手法（総論 1）
- 2 身体機能学研究の研究手法（総論 2）
- 3 身体機能学研究の研究手法（総論 3）
- 4 身体機能学研究の研究手法（神経生理学的方法論 1）
- 5 身体機能学研究の研究手法（神経生理学的方法論 2）
- 6 身体機能学研究の研究手法（神経生理学的方法論 3）
- 7 身体機能学研究の研究手法（神経生理学的方法論 4）
- 8 身体機能学研究の研究手法（運動力学的方法論 1）
- 9 身体機能学研究の研究手法（運動力学的方法論 2）
- 10 身体機能学研究の研究手法（運動力学的方法論 3）
- 11 身体機能学研究の研究手法（運動力学的方法論 4）
- 12 身体機能学研究の研究手法（総合発表 1）
- 13 身体機能学研究の研究手法（総合発表 2）
- 14 身体機能学研究の研究手法（総合発表 3）
- 15 身体機能学研究の研究手法（総合発表 4）

成績の評価

学生研究の研究手法論に関するプレゼンテーションで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

プレゼンテーションの内容に関するフィードバックをおこなう。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。研究方法を確立するために必要な基礎知識を勉強すること。

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

月曜日：12：30～13：00（金井）

木曜日：12：30～13：00（五十嵐）

月曜日：12：15～13：00（谷埜）

火曜日：12：15～13：00（米田）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

診療・研究棟4階409研究室（金井）

診療・研究棟4階401研究室（五十嵐）

4号館 7階 D723研究室（谷埜）

4号館 7階 D722研究室（米田）

講義コード	2G939011
講義名	臨床身体機能学特論講義
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]、谷埜 予士次[理学療法士]、米田 浩久[理学療法士]

目的

身体運動の理解は、障害をもった患者様に対する有効な理学療法を確立する上で必要不可欠となる。また、現時点で障害を有していなくても、理想的な身体運動の理解に基づいた運動および動作指導によって、その発生を予防することも可能である。本講義では、神経生理学および運動学的手法などの見地から、身体運動を科学的に解析することを目的とする。

到達目標

身体運動の理解により、科学的に解明するための基礎知識を身につけることを目標にする。

授業計画表

授業計画

- 1 動作筋電図を用いた身体運動の解析 1
- 2 動作筋電図を用いた身体運動の解析 2
- 3 動作筋電図を用いた身体運動の解析 3
- 4 動作筋電図を用いた身体運動の解析 4
- 5 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 1
- 6 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 2
- 7 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 3
- 8 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 4
- 9 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 1
- 10 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 2
- 11 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 3
- 12 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 4
- 13 その他の機器を用いた身体運動の解析 1
- 14 その他の機器を用いた身体運動の解析 2
- 15 その他の機器を用いた身体運動の解析 3

成績の評価

授業内での発表内容（資料、プレゼンテーション）で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

プレゼンテーションの内容に関してフィードバックする。

自己学習

身体運動の解析をする際に必要な解剖学、運動学、生理学の知識を再度確認しておくこと

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

月曜日：12：15～13：00（谷埜）

火曜日：12：15～13：00（米田）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

4号館 7階 D723研究室（谷埜）

4号館 7階 D722研究室（米田）

講義コード	2G940011
講義名	臨床身体機能学特論演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]、谷埜 予士次[理学療法士]、米田 浩久[理学療法士]

目的

身体運動を十分理解した上で、表面筋電図、誘発筋電図、筋機能評価運動装置および動作解析装置を用い、身体運動を客観的に計測する技術を習得する。また、収集したデータを諸種の方法で解析して、運動療法に活かせるように指導する。具体的には、学生が研究しているテーマをプレゼンテーションしていただき、それについての演習をおこなう。

到達目標

身体運動の理解により、科学的に解明するための具体的な研究方法を演習し、その結果を発表できることを目標にする。

授業計画表

授業計画

- 1 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 1
- 2 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 2
- 3 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 3
- 4 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 4
- 5 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 1
- 6 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 2
- 7 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 3
- 8 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 4
- 9 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 1
- 10 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 2
- 11 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 3
- 12 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 4
- 13 その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 1
- 14 その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 2
- 15 その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 3

成績の評価

授業内での発表内容（資料、プレゼンテーション）で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

プレゼンテーションの内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

月曜日：12：15～13：00（谷埜）

火曜日：12：15～13：00（米田）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

4号館 7階 D723研究室（谷埜）

4号館 7階 D722研究室（米田）

講義コード	2G941011
講義名	医科学研究計画法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 専門領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

医科学分野の全般にわたる特に臨床検査技師として理解しておくべき研究計画の基本を修得することを目的とする。

到達目標

研究の遂行に必須となる知識を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 研究計画の基本
2. 医科学研究における倫理の考え方
3. 遺伝子学分野における研究の基本
4. 微生物学分野における研究の基本
5. 血液学分野における研究の基本
6. 免疫学分野における研究の基本
7. 病理学分野における研究の基本
8. 臨床生理学分野における研究の基本
9. 臨床化学分野における研究の基本
10. まとめⅠ
11. 統計解析の基本Ⅰ
12. 統計解析の基本Ⅱ
13. 統計解析の基本Ⅲ
14. 統計解析の基本Ⅳ
15. まとめⅡ

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

復習を忘れないこと。

テキスト

特に指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

参考資料

特に指定しない。

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室C hkondo@kansai.ac.jp (近藤)

管理棟2階207号室 t-takeda@kansai.ac.jp (竹田)

管理棟2階207号室 ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	2G942011
講義名	医科学研究方法論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 専門領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

医科学分野の全般にわたる実験手技および臨床検査法の基本から応用まで、臨床検査技師として理解しておくべき内容を修得することを目的とする。

到達目標

実際の研究で体現できる知識・技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 生化学分野の研究手技Ⅰ（クロマトグラフィー法）
2. 生化学分野の研究手技Ⅱ（酵素測定法）
3. 遺伝子学分野の研究手技Ⅰ（遺伝子抽出・PCR法）
4. 遺伝子学分野の研究手技Ⅱ（シーケンス法）
5. 微生物学分野の研究手技Ⅰ（菌種同定法）
6. 微生物学分野の研究手技Ⅱ（薬剤感受性試験法）
7. 微生物学分野の研究手技Ⅲ（耐性菌検出法）
8. 血液学分野の研究手技Ⅰ（血球分析法）
9. 血液学分野の研究手技Ⅱ（血栓止血分析法）
10. 病理細胞診断学分野の研究手技Ⅰ（染色法）
11. 病理細胞診断学分野の研究手技Ⅱ（形態観察法）
12. 免疫学分野の研究手技Ⅰ（抗原抗体検査法・フローサイトメトリー）
13. 免疫学分野の研究手技Ⅱ（細胞培養法・動物モデル）
14. 臨床生理学分野の研究手技Ⅰ（画像診断法）
15. 臨床生理学分野の研究手技Ⅱ（電気生理診断法）

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。

必要に応じて資料を配布する。

参考資料

特に指定しない。

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室C hkondo@kansai.ac.jp (近藤)

管理棟2階207号室 t-takeda@kansai.ac.jp (竹田)

管理棟2階207号室 ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	2G943011
講義名	医科学特論講義
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 専門領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

医科学分野の全般にわたり、臨床検査技師として理解しておくべき、関連する疾患および臨床検査法の基本を修得することを目的とする。

到達目標

主に検査・診断を中心とした医科学分野における基本を修得する

授業計画表

授業計画

1. 生化学の基礎
2. 生化学検査技術概論
3. 病態から見る生化学検査の意義
4. 遺伝子検査学概論
5. 感染と発症の理論
6. 臨床微生物検査学概論
7. 医科学分野における疫学解析の基本
8. 血液学の基礎
9. 血液検査学概論
10. 病理組織・細胞学の基礎
11. 病理組織・細胞診断学概論
12. 免疫学の基礎
13. 免疫検査学概論
14. 生理学の基礎
15. 生体検査学概論

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。
資料などを適宜配布する。

参考資料

特に指定しない。

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階

講義コード	2G944011
講義名	医科学特論演習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 専門領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

生化学、遺伝子学、微生物・感染症学、疫学を中心に、臨床検査技師として理解しておくべき、関連する疾患および臨床検査法について基本から応用までを修得することを目的とする。

到達目標

各分野における論文を熟読し、主に検査・診断を中心とした医科学分野における最新の知見を自ら学びとることができること。

授業計画表

授業計画

1. 生化学検査技術に関する文献検討（糖、蛋白など）
2. 生化学検査技術に関する文献検討（生体内酵素）
3. 生化学検査技術に関する文献検討（ホルモン）
4. 生化学検査から学ぶ症例検討
5. 遺伝性疾患に関する文献検討
6. 遺伝子検査学に関する文献検討（PCR法）
7. 遺伝子検査学に関する文献検討（シーケンス法）
8. 最新の遺伝子検査技術の知見
9. 細菌感染症に関する文献検討
10. 真菌感染症に関する文献検討
11. ウイルス感染症に関する文献検討
12. 臨床微生物検査学に関する文献検討（細菌検査）
13. 臨床微生物検査学に関する文献検討（ウイルス検査）
14. 疫学的手法による疾患へのアプローチ（悪性腫瘍）
15. 疫学的手法による疾患へのアプローチ（感染症）

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後のレポートを開示する。
自己学習
課題論文の予習・復習を行うこと。
テキスト
特に指定しない。 論文・資料などを適宜配布する。
参考資料
特に指定しない
オフィスアワー
月曜日昼休み
研究室・授業用E-mail
2号館2階専任教員室C hkondo@kansai.ac.jp (近藤) 管理棟2階207号室 t-takeda@kansai.ac.jp (竹田) 管理棟2階207号室 ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	2G945011
講義名	医科学特論演習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門教育科目 専門領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

血液検査学、病理組織細胞検査学、免疫検査学、生体検査学を中心に、関連する疾患および臨床検査法について、臨床検査技師として理解しておくべき基本から応用までを修得することを目的とする。

到達目標

各分野における論文を熟読し、主に検査・診断を中心とした医科学分野における最新の知見を自らが学びとることができること。

授業計画表

授業計画

1. 血液検査学に関する文献検討（造血器）
2. 血液検査学に関する文献検討（血栓止血）
3. 血液検査学に関する文献検討（分析法標準化の国際的動向）
4. 血液検査学から学ぶ症例検討
5. 病理組織検査学に関する文献検討
6. 細胞検査学に関する文献検討
7. Clinicopathological conference
8. 基礎免疫学に関する文献検討
9. 免疫検査学に関する文献検討(サイトカイン)
10. 免疫検査学に関する文献検討(免疫担当細胞)
11. マウスモデルを用いた免疫学的評価
12. ヒト免疫疾患の診断
13. 生体検査学に関する文献検討（循環器）
14. 生体検査学に関する文献検討（消化器）
15. 生体検査学に関する文献検討（呼吸器）

成績の評価

レポートで評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

課題論文の予習・復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。
論文・資料などを適宜配布する。

参考資料

特に指定しない。

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室C hkondo@kansai.ac.jp (近藤)

管理棟2階207号室 t-takeda@kansai.ac.jp (竹田)

管理棟2階207号室 ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	G9200101
講義名	特別研究（津田）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津田 和志（医師）

目的

近年、循環器疾患、脳血管障害が死亡原因の上位を占めているが、その最大要因は動脈硬化病変に起因するvascular damageである。動脈硬化病変は高血圧のみならず、多くの内因性因子によって影響を受けるが、その調節機構には未だ不明な点が多い。本研究では動脈硬化病変とその形成における調節機序を検討するため、特に肥満関連内分泌因子の動脈硬化における役割と、その臨床的意義について検討する。さらに適切な治療によってこれらの調節機構がいかに変化するかについても詳細な考察を加えてゆきたい。

到達目標

上記の内科学的研究テーマに的確に対応できる総合的な能力を持った医療人の養成を目的とする。

授業計画表

授業計画

各自の研究テーマを検討、決定し、まずそのテーマの関連論文の文献的検索を行う。次に研究計画を作成し、速やかに研究を実施する。そしてデータの解析と検証を行い、必要があれば、さらに新たな研究を実施する。最終的には研究成績の発表と修士論文の作成を行う。

成績の評価

日々の研究への取り組みの態度、関連文献の読解力、ならびに修士論文の内容によって行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

指導中に説明する。

自己学習

研究テーマに関連する文献の検索、整理、内容をよく把握すること。

履修上の注意

テキスト

プリントや関連領域の文献等を適時配布する。

参考資料

研究テーマに応じて、その都度指定する。

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後（内科外来にて15:30頃より）。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

405・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	G9200102
講義名	特別研究（鈴木）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木俊明[理学療法士]

目的

この特別研究では以下の内容から興味のあるテーマについて研究をおこなう。

- 1 理学療法と鍼灸医学の考えを組み合わせた新しい治療法である、経穴刺激理学療法の応用と、その効果に関する神経生理学的研究を動作筋電図、誘発筋電図を用いておこなう。
- 2 運動イメージの効果に関する神経生理学的研究を誘発筋電図、誘発脳波にて研究する。
- 3 理学療法の新しい治療法の開発に関する治療効果を神経生理学的に検討する。
- 4 鍼刺激および代替医療の治療効果を神経生理学的に検討する。

到達目標

最終的な目標は、研究内容を確認させ、プレ中間発表、中間発表、そして公開発表で発表することである。また、学生のレベルに応じて、学術団体での研究発表、学術雑誌への論文投稿をおこなう。

授業計画表

授業計画

研究指導は、以下の流れでおこなう。

- 1 研究テーマの決定
- 2 研究方法論の検討
- 3 プレ実験での結果検討
- 4 実験中のデータの検討
- 5 結果と考察の検討
- 6 プレゼンテーション
- 7 論文作成
- 8 全体のまとめ

なお、研究方法論が決定されたときに、関西医療大学 倫理委員会へ倫理審査書類を提出し、承認後に研究を開始する。

成績の評価

研究への取り組み度合い、授業や発表会でのプレゼンテーションを総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

発表したプレゼンテーションの内容に関する解説をおこなう。

自己学習

授業に関するコメントを対応できるように身体機能学に関する知識を積極的に勉強する。

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室

講義コード	G9200103
講義名	特別研究（五十嵐）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

体力学系の論文を精読し、その内容について深く理解し、研究に必要な概念と研究方法について学び、自ら研究計画を立案し遂行できるようになる。

到達目標

体力学分野の研究に必要な概念と研究方法について学び、その上で研究を行い論文執筆につなげる。

授業計画表

授業計画

- 1回 体力学について学ぶ
- 2回 体力学分野の研究方法
- 3回 人を対象とした研究①
- 4回 人を対象とした研究②
- 5回 人を対象とした研究③
- 6回 動物を対象とした研究①
- 7回 動物を対象とした研究②
- 8回 動物を対象とした研究④
- 9回 疫学研究①
- 10回 疫学研究②
- 11回 疫学研究③
- 12回 発育発達と健康・体力
- 13回 様々な歩行方法と生体に及ぼす影響①
- 14回 様々な歩行方法と生体に及ぼす影響②
- 15回 様々な歩行方法と生体に及ぼす影響③

成績の評価

研究への取り組み、研究発表や論文の内容で評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

体力学に関する本や論文を積極的に読んでおくこと。

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

E-mail

研究室・授業用

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	G9200105
講義名	特別研究 (王)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

担当教員 (実務経験を有する資格)

王財源 (鍼師・灸師)

目的

文献を中心とした研究である。とくに「原典」に対する知識を深めるという、研究の基本をしっかりと身に付けて、習慣化することが必要である。時代、史実考証については勿論のこと、その研究対象は多岐に広がり、学問的な考証を行うための忍耐力が問われる。学生のなかには、学者の解釈を読んだことで、その原典を理解できたという、錯覚に陥るケースがある。これは解釈の受け売りであり、学問が直面し続けている根本課題を追求したことにはならない。本研究の基本は中国医書や哲学書を用いて、「気」による養生思想を『黄帝内経』等々の医書より学び取ることにある。

そこで学生自身が文献を深く読み解き、分析し、批判的思考力を伸ばす。その知識を研究成果に結びつける。

到達目標

本研究の基本は中国医書や哲学書を用いて、「気」による養生思想を『黄帝内経』等々の医書より学び取ることにある。『黄帝内経』に説かれた人体に本源的に備わる生命観を、他文献との整合性を鑑みながら考察し、中国伝統医学の本質に流れる、哲学と医学の融合により構築された「気」の思想について、学生自身が文献を深く読み解き、分析し、批判的思考力を伸ばす。その知識を研究成果に結びつける。

授業計画表

授業計画

各学科共通で医書『重廣補注黄帝内経素問』（顧從徳影宋刻二十四卷本）を中心に、その周辺の医書を用いて研究を進める。『黄帝内経』に載る蔵象（蔵府学説）には、『黄帝内経』独自の医学理論が形成されており、これらは、東洋医学理論の中核を成すものである。故に、中国伝統医療文化より発生した、生理学、病理学、養生学および治療学を論じ、哲学を基盤とする身体観を示唆できる研究者の育成を本研究の目標としたい。

さらに修士論文の客観性を保つために、先行文献や資料の収集など、文献学的根拠に基づいた修士論文の作成を指導する。また、他研究機関の討論会に参加して、より専門性の高い意見や指導を求める。

1. 先行文献や関連文献の調査と研究を行う。
2. 従来の研究で明らかにされていない内容について探求する。
3. 従来の研究に不足しているものを研究対象とする。
4. 研究テーマを決める。研究計画書を作成する。
5. 文献精査を行い、データベースの作成に取りかかる。
5. 時代・年代別、人物別、文献別に分類する。
6. 共通して使用頻度の高いものから順位付けを行い、比較分類、区別する。

7. 参考とした文献のリストを作成する。
8. 考察を行い、証拠、根拠による仮説を組み立て、結論を導き出す。
9. 目次を作成し、研究内容との整合性を再確認する。
10. 公聴会での発表を行う。

成績の評価

研究状況、修士論文の内容などを鑑みて総合的な評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

版本の検証を迅速化するために、本学にも検索システムを導入しているが、本研究では直接、版本を確認することを義務づけている。したがって、各々が他大学の蔵書を確認して、各大学に研究、調査に向かうことを原則とする。

履修上の注意

テキスト

研究を進めながら適宜、紹介する。

参考資料

- 中華再造善本『重廣補注黄帝内経素問』(国家図書館出版社)
- 『海外回帰中医古籍善本集粹』(中医古籍出版社)
- 『黄帝医籍研究』(汲古書院)
- 『校勘学講義』(アルヒーフ)
- 『中国医書の文献学的研究』(汲古書院)
- 『わかりやすい臨床中医臟腑学』第3版(医歯薬出版)
- 『わかりやすい臨床中医診断学』第2版(医歯薬出版)

オフィスアワー

木曜日 12:30~14:00

面談時には事前にメールで連絡してください。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室

E-mail:cai@kansai.ac.jp

講義コード	G9200106
講義名	特別研究(大西)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

目的

機器分析の方法の一つである高速液体クロマトグラフを主に用い、生薬成分等の測定、成分分取を目的とした研究をおこないます。

到達目標

試料中に存在する物質の量や濃度の決定を目的とする分析化学の基本的な原理を理解し、種々のクロマトグラフィーの手法を修得、応用、利用することができることを目標とします。

授業計画表

授業計画

1. テーマの決定
2. 分析機器の取り扱い、原理の理解。
3. 各種実験
4. 実験データの解析とプレゼンテーション
5. 論文作成

成績の評価

研究論文作成を含め総合的に判断します。

自己学習

積極的に論文を読むこと。

テキスト

研究の進行に応じて紹介します。

参考資料

研究の進行に応じて紹介します。

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	G9200107
講義名	特別研究(郭)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	高次神経病態学
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

郭 哲次（医師）

目的

近年のストレス社会においては心身・精神疾患患者が増加しているといわれており、特に高齢者ではいくつかの疾患を併せ持つ複合疾患がしばしば見られる。身体疾患を有する高齢者では、抑うつ、不安、幻覚、妄想、認知障害など、さまざまな精神症状の合併がみられ、また、心身症的な枠組みでとらえることのできる患者も少なくない。しかし現状ではその実態が十分に把握されているとは言えない。このためこうした領域の関連文献の収集に加えて、さまざまな治療を受けている高齢者や心身症に対して、精神生理学的手法を用いて、より適切な治療実践を目指した精神医学的、心身医学、側面からのアプローチ可能性を探る。実際面では各自のテーマに沿った関連文献を公表し検討、またデータの収集を行い、2年時までの修士論文の完成を最終目標として、各自の研究テーマとその内容について検討し明確化してゆく。

到達目標

研究目的にそって、先行研究等を参考にしながら、達成可能な研究計画を立案し、研究資料及びデータ収集を行い、科学的に整理しながら、慎重に研究を遂行することが出来る。研究により得られた結果を、精神医学・心身医学および脳科学的な基盤から、その意義を考察することが出来る。以上を遂行することにより、首尾一貫した修士論文を完成することが出来る。

授業計画表

授業計画

初回のオリエンテーションに基づき、各自の研究テーマについて検討・決定してゆき、そのテーマについて発表する。関連文献の検討を行い、各自の研究に対する有用性を検討するため発表・討論を行う。毎回、発表のために海外論文を中心にした文献検索を行い、レジュメを作成する。自己の研究に対する中間発表を重ねたのち、最終段階では修士論文に向けて詳細な検討会を行ってゆく

成績の評価

発表内容・方法、研究への取り込みを総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験またはレポート提出後レポートの解説を実施する

自己学習

毎回、研究目的に合致した海外論文（国内論文を含む）を、収集し、学習会において発表の目的で、一件あるいは数件の論文紹介のために、あらかじめ読んでまとめる。抄読会、検討会終了後

は、その要点を整理し、ファイルを作成してゆく。実験等開始後は、その準備、計画を毎回日付にをいれて記載し、その日行った結果についても、何を行ったか、なぜうまく行かなかったかなどもれなく記載してゆくこととする。

履修上の注意

テキスト

特に指定しない。

参考資料

随時紹介

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間、原則として予約が必要

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室、 tkaku@kansai.ac.jp

講義コード	G9200108
講義名	特別研究(檜葉)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 檜葉 均	指定なし

目的

我々の生体を傷害させる、あるいは傷害させる可能性のある侵害刺激は、高閾値機械受容器もしくはポリモーダル侵害受容器で電気信号に変換される。この侵害情報を司る電気信号は脊髄後角や三叉神経脊髄路核において一次感覚ニューロンから二次感覚ニューロンに伝達され、更に高次の中枢へと伝わることになる。同時にこの脊髄後角や三叉神経脊髄路核における侵害情報の伝達では、介在ニューロンや脳幹からの下行性ニューロンにより修飾を受けることになる。しかしながら、この領域における局所神経回路や神経機構についてはほとんど知られていないのが現状である。そこで特別研究では、脊髄後角ニューロンの形態学および電気生理学特性について検討し、脊髄後角での情報処理機構や下行性抑制ニューロンの意義について考察を深める。

到達目標

脳幹からの下行性ニューロンには、伝達物質としてセロトニンやノルアドレナリンが含まれている。一方、侵害受容性の一次感覚ニューロンにはサブスタンスP (SP)やカルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP)を神経修飾物質として含有する。これらの物質を手がかりに脊髄後角に位置するニューロンを電気生理学あるいは形態学的に解析し、疼痛制御に関わる神経メカニズムについて言及する。

授業計画表

授業計画

上で述べた「目的」および「到達目標」を達成するため、ニューロンの膜電位特性を検討するパッチクランプ法、遺伝子発現やタンパク質の局在を検討するin situ ハイブリダイゼーション法等の形態学的手法を用いて動物実験を進めることになる。まずはこれらの実験手法の理解と手技を確立し、データの取得および解析、問題点の抽出や研究デザインの設計などについて指導する。また、論文の読み方、書き方、論文の作成などについても適宜、教授する。

成績の評価

修士論文の審査要領に基づき、主査¹名と副査²名で修士論文を審査し評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

修士論文を作成するにあたり必要な参考文献を紹介するので、それらを勉強していただく。

テキスト

適宜、資料を配付します。

参考資料

カandel神経科学 Eric R. Kandel 他著 メディカル・サイエンス・インターナショナル

オフィスアワー

月曜日の12:10～13:10。

研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

講義コード	G9200109
講義名	特別研究(金井)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	
必修/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

目的

肩こり、腰痛などいわゆる整形外科疾患に対する磁気の効果を実験的に研究する

到達目標

磁気治療器のエキスパートを目指す

授業計画表

授業計画

診療所の通院患者を対象に磁気の治療効果を理化学的に調査し、整形外科関連の学会および研究会で発表し、最終的には論文作成を目標とする

成績の評価

論文の内容を総合的に評価する (100%)

オフィスアワー

月曜日 12:45 - 13:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟 409 研究室
kanai@kansai.ac.jp (金井)

講義コード	G9200110
講義名	特別研究(紀平)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

目的

神経変性疾患の病態には遺伝的要因と環境的・外因的要因が相互に関連して作用することが注目されている。紀伊半島南部には筋萎縮性側索硬化症/パーキンソンニズム認知症複合(ALS/PDC)が多発することが知られており、多発の要因として環境や生活習慣との関連が推察されている。ALS/PDCの発症関連要因を明らかにすることは、疾病の予防と発症遅延、さらに治療に貢献できる資料を提供できるものと考えられる。本研究では、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病の発症関連要因の検索を目的として、当該地域住民の生活習慣に関連した酸化ストレスとmiRNA解析を行い、当地域の特徴を明らかにする。さらにALS患者の特徴と比較し、病態との関連につき検討する。

到達目標

本研究課題について理解し、自分で研究計画の立案ができること。さらに教員や研究者の指導の下、研究の遂行と結果のまとめ、考察を行い修士論文を作成すること。

授業計画表

授業計画

1. 神経変性疾患、特に筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、およびアルツハイマー病をはじめとする認知症について臨床・病理学的特徴の解説
2. 対象とする疾患の病態の解説
3. 実験計画の立案
4. フィールドワークにおける生体サンプル採取や取り扱い上の注意点、試薬等の説明
5. 生体試料の分析とそのデータ解析
6. 実験データの解釈について文献検索とプレゼンテーション
7. 修士論文の作成

成績の評価

修士論文の内容、普段の研究への取り組みで評価する。

自己学習

学術論文などの検索を行い、疾病の病態について最新の情報を収集し、ディスカッションに参加できるように自己学習の上、研究に望むこと。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

特に指定しないが、関連領域の論文等の検索による。適宜、研究テーマにより紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 4階 408号室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	G9200111							
講義名	特別研究(吉備)							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名	特別研究科目							
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 吉備 登</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 吉備 登	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 吉備 登	指定なし						
授業計画表								

講義コード	G9200112							
講義名	特別研究(近藤哲)							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 近藤 哲哉</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし						

目的

研究は、失体感症に関するものである。これは、自らの身体の不調に気付かないまま無理をして体調を崩しやすい状態のことを指している。器質的異常がないのに種々の不調を訴える神経症と逆の概念で、心身症に多いと言われているが、ほかにも、糖尿病、高血圧、肝炎などの一般的な疾患でも多く問題になっている。このような患者では、

- ・自発的でなく家族に連れられて来院した
- ・天候の話題をあまり口にしない
- ・体調不良でもあまり仕事を休まない
- ・食べても満腹感を感じない
- ・風呂でリラックスするのが好きでない

という特徴もある。神経症の患者と違って、あまり細かいことに文句を言わず、症状の種類も少なく、まともな印象を受けることも多いと思われる。

到達目標

失体感症の傾向が強いと言われる疾患である高血圧、糖尿病、心因性発熱などの患者を対象にして、鍼灸治療を行った際、失体感症も同じに改善するかを検討する。九州大学大学院医学研究院心身医学で開発された失体感症スケールを用い、ここの共同研究となる。研究デザインとしては、combined controlを用いた条件反転法などを用いる。鍼灸の研究に必要なevidence based medicineの方法についても勉強する。

授業計画表

授業計画

鍼灸治療は身体に直接作用することにより心身の調和を図る治療である。同じく身体面から作用して身体だけでなく心理面の改善を期待できる治療として、自律訓練法がある。自律訓練法には失体感症を軽減する効果があり、鍼灸治療にも同じ効果があるかどうかを検討する。

成績の評価

研究に対する能力だけでなく真摯な態度を含めて総合的に評価する。
定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

なし

参考資料

失体感症尺度(体感への気づきチェックリスト)の開発 大学生を対象とした基礎研究・心身医学52(8):745-754,2012

オフィスアワー

月曜日9:00~12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟303

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	G9200113
講義名	特別研究(近藤弘)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕 竹田知広〔臨床検査技師〕 大瀧博文〔臨床検査技師〕

目的

疾病の診断や病態解析に不可欠な血液学的検査技術の開発と検証、およびその臨床的応用に関して興味ある研究テーマを選定し、はじめに修士論文の研究課題の理論と実践の基礎を構築し、その臨床的応用に関するテーマについて研究を進める。研究成果から得られた結論に基づいて、その新規性、有用性などについて、関連文献をもとに吟味したうえで、プレゼンテーションのための準備を十分に行い学会・研究会などで報告する。報告を通して、公表するとともに評価を受け、最終的に修士論文を完成させる。将来、臨床検査技師として指導的立場になったときに後進の指導をするための基盤にもなる内容を教授する。

到達目標

- 1.研究テーマを定め、関連する原著論文を集めて、内容を理解する。
- 2.研究を進めるために必要な実験手技・解析技術を修得する。
- 3.学会または研究会などにおいて報告する。
- 4.修士論文を作成する。

授業計画表

授業計画

- 1-15回
- 1.興味を持った検査法に関する文献を集めて整理する。
 - 2.研究を進めるために必要な実験手技・解析技術を修得する。
 - 3.研究・実験計画を作成する。
- 16-30回
- 1.研究テーマを決定し、関連論文を査読する。
 - 2.実験の開始
 - 3.得られたデータの統計学的解析、結果の分析と考察
- 31-45回
- 1.追加実験
 - 2.学会・研究会などへの報告
 - 3.修士論文の作成、発表

成績の評価

研究テーマに興味を持ち、その研究の意義を理解し、積極的に実験を実施し、研究論文の作成や学会発表の準備に真摯に取り組んでいるか、研究の理解と実践の全過程を総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の評価内容を開示する。

自己学習

研究を進めるにあたり必要な情報の収集方法、得られた結果の数値処理・評価方法などについては、それらに関連する文献を参考にして、基礎的な知識を習得しておく。

テキスト

特になし

参考資料

関連領域の著書・論文

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室C hkondo@kansai.ac.jp (近藤)

管理棟2階207号室 t-takeda@kansai.ac.jp (竹田)

管理棟2階207号室 ohtaki@kansai.ac.jp (大瀧)

講義コード	G9200114
講義名	特別研究(東家)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

本科目は修士論文執筆のための実験研究を行うことを目的に開講されている。特にここでは、免疫系の役割を担当する器官としての末梢リンパ節の構造に焦点を当て、同組織を機能形態学的に解析する基礎研究を実施する。研究は齧歯類実験動物（マウス）のリンパ節を対象として主に免疫組織化学、透過型および走査型電子顕微鏡等の形態学的手法を用いて解析を進めるが、必要に応じてその他の解析方法も組み合わせる。それぞれの実験手技や実験原理の基礎は研究の進行過程で実践を通して習得する。本研究の遂行により、生体機能について細胞生物学や組織学を基盤とする科学的な思考に基づいて考察する力を涵養すると同時に、リンパ節の機能形態に関する理解を深めることを目指す。

到達目標

1. 研究テーマの目標を達成している。
2. 本学の学位審査の合格水準に到達する内容の修士論文の執筆と学術誌への投稿が完了している。

授業計画表

授業計画

研究の進行に伴い、以下の項目に関して体系的に指導する。

1. 実験器具、試薬、実験機器の取り扱い
2. 実験ノートの付け方
3. 実験計画の立て方
4. 実験動物の飼育と処置方法
5. 各種の実験手技および機器等の操作方法
6. 実験データのまとめ方とプレゼンテーション
7. 修士論文の執筆

注：研究・実験を遂行するためには、規定の授業以外に相当の時間を必要とする。

成績の評価

公開発表会の結果に基づく論文審査委員会の審査結果に基づき評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

公開発表会の結果について、発表会終了後に総括する。

自己学習

自律的、主体的に研究を進めることができるように、関連する論文や図書を自主的に検索して目を通し、情報収集に励むこと。

履修上の注意

テキスト

実験、研究を進めながら適宜、紹介する。

参考資料

実験、研究を進めながら適宜、紹介する。

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	G9200116
講義名	特別研究(中納)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究科目
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕

目的

研究課題の明確化から研究計画書の立案、研究倫理審査、実施、修士論文作成までの一連の研究活動を通して看護における研究能力を高める。

到達目標

- 1.研究課題に関連する文献レビューやクリティークから研究課題を明確にすることができる。
- 2.研究課題が明確にできる研究方法が理解できる。
- 3.研究計画書の作成ができる。
- 4.研究倫理審査の必要性を理解し、必要な書類の作成ができる。
- 5.研究倫理および研究方法に基づいた研究実施ができる。
- 6.得られた研究結果から考察を行い、論文作成ができる。

授業計画表

授業計画

- 1.看護学における研究課題に関連する文献レビューやクリティーク
- 2.研究課題に沿った研究デザインと研究計画
- 3.研究計画書の作成
- 4.研究倫理審査について
- 5.論文作成法
- 6.研究成果とプレゼンテーション

成績の評価

プロセスでの取り組み・修士論文・発表など総合的に評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績終了後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

テキスト

指定しない

参考資料

適宜紹介する

オフィスアワー

月曜日12：30から13：00

研究室・授業用E-mail

講義コード	G9200117
講義名	特別研究(畑村)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

目的

生活習慣病には高血圧、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症などあり、その結果血管動脈硬化、不妊、加齢等をはやめたりする。現在社会においては罹患者が急増していることもあり、これから予防対策をしていかなければならない重要な疾患である。このような疾患について鍼灸、理学、ヘルス、臨床検査、看護のそれぞれの立場から何ができるかを世の中に発表されている事実をもとに、新に何ができるかを自ら考え、研究内容を整理し、おもに動物、培養細胞等を使った基礎的な（主に分子生物学的な）実験をおこない英語論文を作成することを目的とする

到達目標

自分のしたい研究内容を考え、その考えが、論文等でノイエス(neues)どうか検索し、研究計画をたて実験を行い、最終的に英語論文にまとめることを目標とする

授業計画表

授業計画

1. 研究計画立案のための情報検索
PubMedなどを利用し、英語論文をしっかりと検索し、研究に必要な情報を検索し、理解する
そして事前の実験計画を作成する。
2. 研究実施とデータの解析、考察、議論、プレゼンテーション
おこなった実験データを整理し、解析を行い考察をおこない、自分の考えをまとめ、次に何をどうするかを考え整理しプレゼンテーションできるようにまとめる
3. 研究論文の作成
おこなってきた実験を整理し論文の作成をおこなう

成績の評価

発表の内容・方法・研究への取り組みおよび研究論文をもって評価を行います。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に解説をおこなう

自己学習

当然英語の勉強が必要である。自宅では実験にあたる前に、事前の研究計画が必要であり、論文に基づいて実験ノートを作成しあらかじめ何をこなすかシュミレーションすることが必要となる。自己学習時間については授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

適宜英語論文をわたします

参考資料

自分が研究する分野の英語論文全般

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	G9200118	
講義名	特別研究(山本)	
講義開講時期	通年	
講義区分		
基準単位数	6	
科目分類・分野名		
科目ナンバリング		
対象学科・学年	1・2年	
必修/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし
目的		
疫学を学び、自ら興味のある分野の研究計画を立て、実践する。		
到達目標		
疫学の研究計画を立て、実践することが出来る。他の論文を疫学的に評価出来る。		
授業計画表		
授業計画		
優秀な海外研究論文を学ぶ。 実際に「変形性膝関節症に対する鍼灸治療の臨床的効果に関する研究」を行う。 EBM (Evidence-Based Medicine) を理解する。		
成績の評価		
レポートで評価する。		
自己学習		
テキスト・参考図書を自習する。		
履修上の注意		
テキスト		
適宜、プリント配布。		
参考資料		
『MODERN EPIDEMIOLOGY 3rdedition』 KennethJ.Rothman 『ロスマンの疫学』 KennethJ.Rothman 著 矢野栄二訳(篠原出版)		
オフィスアワー		
月曜、水曜 (12:15~13:00)、前もって連絡をいただければ、出来るだけ対応致します。		
研究室・授業用E-mail		
研究診療棟 3階 312号室yamamoto@kansai.ac.jp		

講義コード	G9200119
講義名	特別研究(若山)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	
必修/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

目的

鍼灸のEBMに関する研究を行う

到達目標

研究の手順を理解する

授業計画表

授業計画

まず研究テーマを決定し、それに沿って研究を行う。
論文の検索、プロトコルの立て方、データ解析、論文の執筆を指導する。

成績の評価

日頃の成果により評価する

自己学習

指示されたことを次の打ち合わせまでまとめてくること

テキスト

特に指定しない

参考資料

紹介する

オフィスアワー

火曜・水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

1号館205研究室
wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	G9200120
講義名	特別研究(伊藤)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

目的

主に運動器系とカルシウム代謝、生殖機能について研究を行う。
 運動器系は、免疫系、神経系、循環系と互いに関係しながら形成・機能する複雑な「臓器」である。運動器系の構成要素は数種類の細胞に限定されているのに、その形態と機能はバラエティに富んでおり、それ故関連する疾患も多彩である。また特に骨は様々な蛋白質やカルシウム、リンの貯蔵場所としての機能も持っており、腎機能や全身の臓器の石灰化とも関連している。
 本特別研究においては、分子生物学的・分子病理学的解析手段を用いて、運動器系と生殖器系の形成や維持、疾患発生についての実験的研究を行う。実験研究の分野としては、①骨格の形成における石灰化のメカニズムの分子学的解析 ②関節の形成と維持に関係する分子の同定と疾患への関与の解析 ③はり灸など力学的刺激に対する運動器・生殖器の応答の分子的解析 などを予定している。

到達目標

修士論文を作製し、研究内容が査読誌の審査をパスして掲載されることを目標とする。

授業計画表

授業計画

まず研究テーマを決定したあとに、文献調査を行う。データベースから研究に必要な関連論文を検索し、その内容を元に予備実験をおこなって研究計画を策定する。
 また実験の方法について書籍や論文を調査し、本実験を行い、結果を整理・考察して論文を作製、プレゼンテーションを準備して学会等で発表する。
 実際の研究については逐一相談の上実施するが、主たるフィールドは動物実験と培養細胞を用いた分子生物学的、組織学的解析である。

成績の評価

修士論文によって評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

修士論文の評価をもってフィードバックとする。

自己学習

当該分野についての研究動向について、関連論文に必ず眼を通し理解しておくことを必要とする。また実験研究であるので、研究手法についての目配りも必要で、月に5報程度は英語論文の通読が必要である。
 研究は自主的に行うもので、指導はするが受け身ではできないことに留意して欲しい。

テキスト

特になし

参考資料

- Gilbert, SF., "Developmental Biology 10th" Sinauer Associates, Inc., 2013
- Hall, BK. "Bones and Cartilage: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology" Academic Press, 2005

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 4 F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	G9200121
講義名	特別研究(大島)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

近年、神経科学領域は電気生理学的手法、形態学的手法、分子生物学的手法など目覚ましい発展を遂げている。
本特別研究においては、電気生理学的手法と形態学的手法を用いて、視床-皮質投射系の情報処理に関する研究を行うことを目的とする。

到達目標

実験を行うことでその手法を学び、過去の論文と得られ結果から何が言えるかを考える能力を身に付けることを目標とする。また、学会発表や論文にまとめることができるようになることも目標とする。

授業計画表

授業計画

1. テーマの設定
2. 実験手法を習得
3. データ解析
4. 論文作成
5. プレゼンテーション

成績の評価

取り組みと論文作成で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

自己学習

研究に関係する論文を入手し、それを読む。

テキスト

指定しない

参考資料

指定しない

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	G9200122							
講義名	特別研究(木村研)							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 木村 研一</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 木村 研一	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 木村 研一	指定なし						
目的								
<p>鍼灸は伝承的治療法として広く知られているが、その治療効果についてはevidence-based medicineに則った客観的な評価が必須で、「科学的根拠」を立証することが必要とされている。鍼灸治療には痛みを緩和したり、末梢循環を改善する作用があることが知られている。末梢循環の改善により栄養物質の供給や炎症等による疲労物質の除去などが促進されると考えられている。特別研究では低周波鍼通電刺激が筋組織中の酸素動態に及ぼす影響について、近赤外線分光法（NIRS）を用いて検討する。また、心拍変動解析や血圧、心拍数などの循環動態への鍼灸刺激の影響を検討する。</p>								
到達目標								
<p>特別研究では研究テーマに関連する論文を読み、先行研究で得られた知見と課題を学ぶ。研究テーマを明らかにするための研究計画を作成し、実験を遂行する。得られた結果を解析し、論文をまとめる。</p>								
授業計画表								
成績の評価								
研究論文の内容で評価する。								
自己学習								
研究に関連する論文や著書をなるべく読む。								
テキスト								
特になし。								
参考資料								
特になし。								
オフィスアワー								
火曜日（12:00～13:00）								
研究室・授業用E-mail								
診療・研究棟4階414研究室k.kimura@kansai.ac.jp								

講義コード	G9200123
講義名	特別研究(坂口)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

目的

鍼灸学の更なる発展には、鍼灸治療の有効性、安全性、経済性の検証が不可欠である。本科目では、「冷え症」をはじめとする末梢循環障害を対象とし、特に鍼灸治療の有効性について臨床研究を行う。また、臨床研究の遂行にかかるデータ取得のための基礎的な知識や治療の評価法などを習得し、鍼灸治療の有効性をより客観的に評価する力を養うことを目的とする。

到達目標

臨床研究にかかるルールを身に付け、それに基づいた研究を遂行できる。

授業計画表

授業計画

以下の項目について体系的に指導する。

1. 臨床研究のためのルール
2. 臨床研究の手法
3. 臨床研究の実践
4. データの解析
5. 研究結果のプレゼンテーション
6. 修士論文の作成

成績の評価

研究に取り組む姿勢や公開発表会などの内容を踏まえ、総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

公開発表の内容（パワーポイント、プレゼンテーション）について、良かった点、改善点などをフィードバックする。

テキスト

テキストは特に指定せず、参考資料（文献など）は適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:00～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp

講義コード	G9200124
講義名	特別研究(高岸)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究科目
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

目的

我が国は、世界でも類をみない超高齢社会に突入している。日常生活を健康的に送ることができる期間である“健康寿命”を延ばす新たな取り組みや、安全で気軽に実施できる効率のよい手法、またそれらが身体に及ぼす影響や効果などを検討し、自らが持つ資格を活かして、いかに社会に貢献していくかを検討することを目的とする。

到達目標

疑問点や問題点に対して論理的な思考で解決に導く姿勢を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 研究テーマの決定
2. 研究テーマに基づく文献検索および情報収集
3. 研究計画の立案
4. 予備研究の実施
5. 研究実施
6. データの解析・分析とプレゼンテーション
7. 論文の作成

成績の評価

修士論文の作成 (90%) ・ 取り組み度 (10%) にて評価

自己学習

研究テーマの決定から修士論文の作成までに至る必要事項

履修上の注意

研究テーマを自ら決定し、受け身ではなく強い意志を持って積極的に取り組む姿勢を持つことを必要とする。

テキスト

随時指示する。

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 木曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室・授業用E-mail

研究室 : 診療・研究棟4階 415研究室

E-mail : takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	G9200125
講義名	特別研究(谷)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

谷 万喜子〔鍼灸師〕

目的

神経疾患のなかでも、鍼治療効果の期待されるジストニアに対する評価と鍼治療技術を習得し、その治療効果について臨床研究・基礎研究を行う。臨床研究として、臨床上で得られた効果・課題から研究テーマを定める。また、ジストニアに対する鍼治療では、罹患筋の筋緊張異常をコントロールするために循経取穴の理論に基づいて、遠隔部経穴への刺激を用いている。そのため、基礎的研究としては、循経取穴による鍼刺激効果を神経生理学的に検討する。

到達目標

ジストニアの評価方法と治療法を習得して、鍼治療効果についての研究を行い、得られた成果について学会発表および論文作成を行う。

授業計画表

授業計画

ジストニアに対する鍼治療の有用性と鍼治療効果をさらに高める方策を基礎的・臨床的に検討する。下記の流れで、病態の把握、鍼治療法の習得、研究への展開を行う。

- 1 ジストニアの病態を理解する
- 2 ジストニアの各種治療法を理解する
- 3 ジストニアに対する鍼治療法の習得
- 4 神経生理学的評価手法の習得（表面筋電図）
- 5 神経生理学的評価手法の習得（誘発筋電図）
- 6 研究テーマ決定
- 7 データ収集とまとめ
- 8 論文作成

成績の評価

（社）全日本鍼灸学会学術大会および、（社）全日本鍼灸学会近畿支部学術集会において演題発表を行うとともに、論文としてまとめる。これらの発表の内容、取り組みを総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

演題発表、論文作成の経過中、随時解説する。

自己学習

「ジストニア」という疾患の病態・治療法などについての理解を深める。

参考資料

『The acupuncture for Dystonia ージストニアと鍼治療ー』（電子書籍）編集工房ソシエタス

オフィスアワー

月曜日：12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階307研究室
tani@kansai.ac.jp

講義コード	G9200126
講義名	特別研究(谷埜)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

目的

臨床上の疑問を解決するために自ら研究計画を立案し、実行できる能力を養うことを目的とする。

到達目標

研究計画の立案、データ収集・処理、考察の過程を通して修士論文にまとめることを目標とする。

授業計画表

授業計画

研究テーマ、および方法論については文献抄読会を行いながら作成し、適宜開催する経過報告会においてコメントを受けながら立案する。また予備実験を行いながら実験方法を検討していく。本実験より得られた結果をもとに修士論文を作成する。

成績の評価

修士論文の内容を評価する。

自己学習

自らの研究に関する情報収集を積極的に行ってほしい。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室
tanino@kansai.ac.jp

講義コード	G9200127
講義名	特別研究(戸村)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

鍼施術の有効性を検討する際、特定の疾患を対象とした介入研究が世界的に実施されている。しかし、検討の中心が専ら治療効果で、治療方針は殆ど検討されていない。この原因の1つが、東洋医学にはエビデンスに基づく診断方法が極端に少ないことである。この問題を解決するために、有効な診断尺度の確立は不可欠である。例えば、東洋医学的診断尺度「五臓スコア(Five Viscera Score: FVS)：未病スコア」は、2000年以上もの間、患者観察により蓄積された症状を統計学的にまとめたものである。この開発には、尺度（質問紙）作成の技術が利用されている。特別研究ではいずれかの研究を選択してもらう。①FVSの作成過程を題材に尺度作成の技術を学ぶことで、将来さまざまな診断尺度や質問紙の作成などに役立つスキルを身につける。②FVSの結果から個人に合わせた東洋医学的見地に基づいたサービス内容を検討・実施できるスキルを身につける。

到達目標

- ①診断尺度や質問紙の作成、それに係る調査、解析が理解、実施できることを目的とする。
 - ②東洋医学的見地に基づいたサービスの立案、実施できることを目的とする。
- いずれも、調査方法や解析方法、研究発表方法までをトータルに学ぶ。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

特別研究(戸村) で保健医療分野の専門職として以下の実践力を身につける。

診断尺度や質問紙の作成、それに係る調査、解析を理解、実施することで、保健医療分野のリーダーとしての論理的思考力と問題発見・解決能力を養う。また、東洋医学的見地に基づいたサービスの立案、実施することで、保健医療分野のリーダーとしての責任感と主体的行動力を養う。いずれも、調査方法や解析方法、研究発表方法までトータルで学び、保健医療分野の専門領域の発展に貢献できる研究力を養う。

授業計画

- ・尺度（質問紙）作成総論
- ・調査方法
- ・データ解析方法
- ・論文執筆方法
- ・プレゼンテーションテクニック

成績の評価

研究発表や論文の内容(80%)、研究への取り組み度(20%)によって評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の論文を開示する。

自己学習

さまざまな統計手法を用いるため、統計学の図書を利用した予習と復習が必要です。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

「医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

「臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン」(認定NPO法人健康医療評価研究機構)

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10~12:40

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	G9200128
講義名	特別研究(深澤)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 深澤 洋滋	指定なし

目的

慢性疼痛管理の治療薬として抗炎症薬や麻薬性鎮痛薬などが利用され、積極的な治療が臨床現場で行われています。しかし、一部の疼痛はこれらの薬物に対して抵抗性を示すことから、慢性疼痛を引き起こす機序が多岐にわたることが示唆されています。そのため、機序に見合った治療が行われなければ、十分な鎮痛を引き起こすことが出来ないことから、慢性疼痛を引き起こす機序の解明が急務となっています。そこで、本演習では、培養細胞系や実験動物を用いて分子生物学的および細胞生物学的手法による解析を行い、慢性疼痛の機序の解明を試みます。

到達目標

研究者としての基本的な実験手技の取得およびその実践、実験結果から導き出せる妥当な解釈の導出法の修得、最終的には、これらを修士論文へとまとめ上げる力の育成を目標とします。

授業計画表

授業計画

基礎研究を進め、論文執筆までの必要な知識を体系的に指導します。その概要を以下に示します。

- 1.慢性疼痛に関する分野の論文を調査し、また関連学会へ参加することにより、最新の研究の動向を把握したうえで、深い興味を持って取り組むことが出来る研究課題を決定します。
- 2.研究課題に沿って、研究計画を設計し、研究プロセスや研究法などが妥当であるか検討します。
- 3.研究計画を実際に遂行するのに必要な実験手技、機器、器具の取り扱い、培養細胞や実験動物の扱いなどを、実験を通じて習得します。
- 4.研究計画に従って研究を行い、実験データを集積します。必要に応じて実験データの解析法も習得します。
- 5.集積された実験結果をまとめ修士論文を作成します。

成績の評価

- 以下の点について学年の最後に判定します。
- 1.正しい研究手技が身についているか。
 - 2.実験データの質が論文作成に適したものであるかどうか。
 - 3.実験結果をもとに、妥当な解釈を行い、適切に論文作成が行われているかどうか。
 - 4.研究課題についての討議を行い、内容を十分理解できているかどうか。

自己学習

大学院研究では、能動的な取り組みが重要です。研究課題に対して常に興味を持ち、自主的に調査・研究・学習を行うことが求められます。

オフィスアワー

【前期】月曜日：昼休み（12:30～13:00）

【後期】木曜日：昼休み（12:30～13:00）

事前に下記のメールアドレスに等に連絡して頂ければ、他の時間帯・曜日でも対応可能です。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室

fukazawa@kansai.ac.jp

講義コード	G9200129							
講義名	特別研究(米田)							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 米田 浩久</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 米田 浩久	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 米田 浩久	指定なし						
目的								
<p>本特別研究では、主として運動学習の諸機序の解明について、表面筋電図や重心動揺・圧分布、動作解析などの実験装置を用いて、理学療法に応用することを目的に基礎研究として、臨床身体機能科学について研究を実施する。</p>								
到達目標								
<p>修士論文の完成が最終的な目標であるが、研究の進行過程にもよるが、機会があれば学内にとどまらず、途中経過を専門学会で報告し、専門家からの示唆も受けながら修士論文を作成することを考えている。</p>								
授業計画表								
授業計画								
<p>研究テーマおよび方法論については、英文および和文の文献検索レビューを行いながら作成し、適宜開催する経過報告会において示唆を受けながら立案する。その後、予備実験による方法論の修正、本実験によるデータ収集へと展開していく。本実験より得られた結果を基に修士論文を作成する。</p>								
成績の評価								
<p>修士論文の内容や研究に取り組む姿勢によって、総合的に判断する。</p>								
定期試験、レポート等に対するフィードバック								
<p>研究内容に対してドラフトによる定期的に指導を行う</p>								
自己学習								
<p>自己の研究テーマに関する文献検索は、自主的かつ積極的に実施すること。適宜、文献の確認と実験アウトラインの整合性を確認する。</p>								
テキスト								
<p>特に定めない。適宜、資料を配付する。</p>								
参考資料								
<p>特に指定しない。</p>								
オフィスアワー								
<p>火曜日 12時～13時</p>								
研究室・授業用E-mail								
<p>4号館7階 D722研究室・yoneda@kansai.ac.jp</p>								

講義コード	G9200130
講義名	特別研究(大瀧)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大瀧 博文	指定なし

目的

病原微生物の中でも主に細菌にターゲットを絞り、臨床的に重要な菌種における病原因子や薬剤耐性因子などの疫学解析やそれらの検出に有用となる新たな検査法の検討を行う。

到達目標

- 1) 研究に必要な知識、技術を修得する。
- 2) 論文(邦文・英文)から最新の知見を得る習慣を身に付ける。
- 3) 学会・論文発表を目標とし、それらに必要なスキル(データ解析、文書・図表作成、発表スライド・論文作成)を修得する。

授業計画表

授業計画

- 1) 研究課題の決定
- 2) 研究課題を遂行するための必要な基礎的知識および最新の知見の修得
- 3) 研究計画の立案
- 4) 実験器具・機器・試薬の取り扱いについて
- 5) 各種の実験の実施
- 6) 実験データの解析およびまとめ
- 7) プレゼンテーション
- 8) 論文作成

成績の評価

修士論文および研究への取り組み姿勢によって評価する。

自己学習

「感染症および病原微生物のプロフェッショナル」を目指し、常日頃から必要な情報の収集を心がける。

テキスト

特に指定しない(適宜配布する)。

参考資料

特に指定しない(必要に応じて紹介する)。

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

講義コード	G9200131
講義名	特別研究(竹田)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし

目的

臨床検査で用いられる免疫学的検査手法、実験手法を習得し、アレルギー発症機構の解明を目的とする。

到達目標

免疫学的実験手法、基礎免疫、臨床免疫を習得し、アレルギー発症機構の解明することを到達目標とする。

授業計画表

授業計画

抄読会にて基礎免疫、臨床免疫学について学習し、フローサイトメトリーやRT-RCR等の基礎的実験手法について
 実習する。また、マウスモデルを用いてアレルギー発症機構の解明を目標とする。

成績の評価

ミーティングでの発表 50%・レポート 50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

文献検索をおこなうこと。

テキスト

特に指定しない

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室
 t-takeda@kansai.ac.jp

講義コード	G9200132
講義名	特別研究(文野)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 文野 住文	指定なし

目的

Evidence-based Medicine (EBM) という言葉があるにもかかわらず、現在、我々がおこなっている理学療法は科学的根拠が立証されていないことが多く、イメージトレーニングもその一つである。本特別研究では、私の主な研究テーマである「運動イメージ」を通して、将来、疑問を自ら解決できる、研究の基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

到達目標

研究計画の立案から実験、研究データの解析、研究結果を論理的に解釈する過程を通して研究の基礎を習得し、研究成果を修士論文にまとめることを目標とする。

授業計画表

授業計画

まず、大まかな研究テーマを決定する。その後、国内・国外問わず多くの先行文献を抄読し、研究テーマの妥当性を吟味する。具体的な研究テーマを決定したら予備実験を行い、適宜指導も加えながら研究方法を確立し、本実験を開始する。実験結果を解析し、得られた結果について考察をおこなう。その成果を修士論文としてまとめる。

成績の評価

研究に取り組む姿勢、発表や修士論文の内容により、総合的に評価する。

自己学習

研究テーマに関する先行文献を多く収集し、熟読すること。研究に対し積極的かつ真面目に取り組むこと。

テキスト

適宜研究テーマに応じて紹介する。

参考資料

適宜研究テーマに応じて紹介する。

オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館5階D513第1共同研究室
E-mail：bunno@kansai.ac.jp

講義コード	G9200133
講義名	特別研究 (小河)
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	
必修/選択	

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小河 健一	指定なし

目的

今や糖尿病は国民病となっている。糖尿病の合併症として細小血管障害（網膜症、腎症、神経障害）や大血管障害（脳梗塞、心筋梗塞、下肢動脈閉塞症）、歯周病、認知症、白内障、緑内障、癌のリスクの増加などさまざまなものがあり、患者のQOLを著しく損なう可能性が高い。そのため糖尿病の病態を理解し、治療法、療養法に精通し、発展させていくことは重要なことである。

到達目標

糖尿病の病態を理解し、治療法、療養法を通して患者に貢献できる研究を試行し、世の中に発信する。

修士論文を作成する。

授業計画表

授業計画

各自の研究内容を検討、決定する。
 研究内容に沿った文献検索を行い、研究の手法を選択する。
 関西医療大学倫理委員会での倫理審査承認後に迅速に研究を遂行する。
 研究内容をまとめ、プレ中間、中間、公開発表を行い、修士論文を完成させる。
 学会発表や学術雑誌への論文投稿も検討する。

成績の評価

研究への取り組み、発表内容、修士論文の内容により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験の場合は模範解答を掲示または解説します。
 レポートの場合は添削のうえ返却または解説します。

自己学習

事前に糖尿病の病態、治療、療養や研究内容に関することについて、成書や文献で自己学習し理解しておく。

テキスト

成書に関しては研究内容により希望があれば紹介する。
 参考資料は基本的に自己で検索する。

参考資料

参考文献は基本的に自己で検索する。

オフィスアワー

月曜：12:00-12:45
 12:00-12:45

木曜：
不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡をお願いします。
上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 309研究室
ogawa@kansai.ac.jp

講義コード	G9200134
講義名	特別研究（矢野）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 矢野 恵子	指定なし

目的

病態学としての臨床細胞診学を実践する能力を修得することを目標に研究を行う。主に液状化細胞診断を対象に、診断精度、免疫染色、コンパニオン診断関連検査などの検討を行う。

到達目標

研究テーマを定め、研究を進めるにあたり必要な実験手技とデータ解析の技術を修得する。研究結果は学会などに報告を行い、修士論文にまとめる。

授業計画表

授業計画

- 1) 研究課題を決定する。
- 2) 研究に必要な知識と技術を修得する。
- 3) 研究計画を立案する。
- 4) 実験の開始
- 5) 得られたデータの統計学的解析、結果の分析と考察を行う。
- 6) 学会・研究会などへ報告する。
- 7) 修士論文の作成、発表

成績の評価

研究に取り組む姿勢、課程、成果を総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、希望者には採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

必要な情報の収集方法、得られた結果の数値処理・評価方法などについては、基礎的な知識を習得して研究に臨むこと。

テキスト

特になし

参考資料

関連領域の著書・論文

オフィスアワー

木曜日 12:30から13:00

研究室・授業用E-mail

2号館専任教員室A

講義コード	G9200135							
講義名	特別研究（荒川）							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名	特別研究科目							
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 荒川 裕也</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 荒川 裕也	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 荒川 裕也	指定なし						
授業計画表								

講義コード	G9200136
講義名	特別研究（岩井）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究科目
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

目的

この特別研究では以下の内容から興味のあるテーマについて研究をおこなう。

- 1 作業（人が行う目的ある活動）と健康の関係
- 2 身体障害を持つ人の作業再獲得の過程
- 3 精神障害を持つ人の作業再獲得の過程
- 4 ターミナル期における作業の手放しとQ.O.L
- 5 医療福祉専門職の職務満足とエンパワメント
- 6 医療福祉専門職の職場環境とウェルビーイング

到達目標

修士号を取得するにふさわしい、研究法、研究倫理を習得する。具体的な内容は以下のとおりである。

- ①適切な研究テーマを絞り込む事が出来る
- ②適切な研究方法を決定する事が出来る
- ③適切に研究を実施する事が出来る
- ④研究結果について適切な分析を行う事が出来る
- ⑤研究全体を総括し、修士論文を作成する

授業計画表

授業計画

〔研究指導〕

- 1 研究テーマ案の提出
- 2 テーマについての文献レビュー
- 3 テーマの絞り込みと決定
- 4 研究方法の決定
- 5 研究計画の策定
- 6 実験・調査等実施
- 7 データの分析と結果の検討
- 8 論文作成

※研究倫理

- ・研究を行うに当たってAPRINの倫理講習を受けること
- ・研究計画策定後、関西医療大学倫理委員会へ倫理審査書類を提出し、承認後に研究を開始する。

成績の評価

ゼミ・授業等への出席及び研究に向かう態度、プレゼンテーション、作成論文を総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

ゼミにおいて、指導を行う。

自己学習

- ・受講授業についての自主学修を行うこと
- ・研究テーマについての文献レビュー等を積極的に行うこと

テキスト

テーマに応じ、教員作成資料等

参考資料

テーマに応じて適時、指定する。

オフィスアワー

金曜日 16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D718研究室 k.iwai@kansai.ac.jp

講義コード	G9200137
講義名	特別研究（大歳）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大歳 太郎	指定なし

目的

この特別研究では、自閉スペクトラム症児に対する生活を支援する評価法や介入法及び機器の開発に関する研究をおこない、当該児の生活に貢献できる方法論を構築する。

到達目標

最終的な目標は、研究内容を確認させ、プレ中間発表、中間発表、そして公開発表で発表することである。また、学生のレベルに応じて、学術団体での研究発表、学術雑誌への論文投稿をおこなう。

授業計画表

授業計画

- 1 研究テーマの決定
- 2 研究方法論の検討
- 3 プレ実験での結果検討
- 4 実験中のデータの検討
- 5 結果と考察の検討
- 6 プレゼンテーション
- 7 論文作成
- 8 全体のまとめ

なお、研究方法論が決定されたときに、関西医療大学 倫理委員会へ倫理審査書類を提出し、承認後に研究を開始する。

成績の評価

研究への取り組み度合い、授業や発表会でのプレゼンテーションを総合的に評価する。

自己学習

研究テーマに関連する文献を読み込んでおく。

オフィスアワー

月曜日：12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D716研究室 ootoshi@kansai.ac.jp

講義コード	G9200138
講義名	特別研究（神戸）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究科目
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子

目的

研究課題の明確化から研究計画書の立案、実施、修士論文作成、研究倫理審査までの一連の研究活動を通して、看護における研究能力を高める。

到達目標

1. 研究課題に関連する文献をレビューし、自身の研究課題を明確にすることができる
2. 研究課題を明確にするための研究方法や分析方法を理解できる
4. 研究課題を明確にするための研究計画書を作成できる
5. 研究倫理に基づいて、必要なデータを収集し、分析を行う
6. 修士論文の作成ができる
7. 看護関連学会で自身の研究について発表できる

授業計画表

授業計画

1. 研究課題に関連する文献検討
2. 研究課題に沿った研究デザインと具体的な研究計画の立案
3. 研究計画書の作成
4. 研究倫理審査
5. データの収集と分析
6. 修士論文の作成
6. 研究成果の発表

成績の評価

プロセスでの取り組み・修士論文・発表など総合的に判断する

自己学習

詳細については第1回目に説明を行う

テキスト

指定しない

参考資料

適宜紹介する

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714研究室

kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	G9200139
講義名	特別研究（木村大）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	6
科目分類・分野名	特別研究科目
科目ナンバリング	
対象学科・学年	1・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 大介	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 大介[作業療法士]

目的

臨床で感じる疑問や課題を解決するための方法論として、研究計画を立案，それを実行するプロセスの中で，自ら問題を解決するスキルを養うことを目標とする。

現在取り組んでいる研究テーマは以下になる。

1. 認知症のBPSDに対するデータマイニングに基づく行動パターン解析に関する研究
2. 自律神経に着目した認知症のBPSDに対する予防的介入に向けた実証的研究
3. 眼球運動測定システム（アイカメラ）とNIRSの同時計測による新たな転倒予防介入プログラム開発に関する基礎的研究

到達目標

研究テーマを修士論文にまとめるまでを最終目標とするが，その過程で研究計画を立案，データ収集と解析，結果の解釈，考察までの一連のプロセスを実施できる能力を身に付けることを目標とする。

授業計画表

授業計画

修士論文を完成するまでの流れは，①研究テーマの確立（文献レビュー），②研究計画の作成（倫理審査書類提出），③データ収集，④データ分析，⑤結果の解釈，⑥考察の作成，⑦プレゼンテーション，⑧論文作成になる。適宜経過報告のセミナーを開催し，研究の進捗状況を確認，指導を行いつつ修士論文作成まで指導する。なお，学生の取り組み状況によるが，在籍中に学会，学術団体等において研究発表を行う。また，在籍期間内を問わないが，修士論文のテーマを学術雑誌に投稿するまでの指導を行う。

成績の評価

研究への取り組み，プレゼンテーション，修士論文の完成度等を総合的に評価する。

自己学習

研究テーマに関する文献のレビューを積極的に実施する。レビューした文献は適宜レビューシートに概要をまとめ確認を行う。

テキスト

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考資料

特に指定しない。適宜資料を配布する。

オフィスアワー

月曜日：16：30～17：30

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D715研究室 d.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	G9200140							
講義名	特別研究（森本）							
講義開講時期	通年							
講義区分								
基準単位数	6							
科目分類・分野名								
科目ナンバリング								
対象学科・学年	1・2年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 森本 かえで</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 森本 かえで	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 森本 かえで	指定なし						
担当教員（実務経験を有する資格）								
森本かえで〔作業療法士〕								
目的								
<p>この特別研究では以下の内容から興味のあるテーマについて研究をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法とICTや就労支援の考えを組み合わせた研究である。障害を持つ方にも使いやすいe-ラーニングの開発なども行う。 2 作業療法における認知行動療法の治療効果を検討する。 3 インターネット依存症やゲーム依存症における作業療法の治療効果を検討する。 								
到達目標								
最終的な目標は、研究内容を確認させ、プレ中間発表、中間発表、そして公開発表で発表することである。また、学生のレベルに応じて、学術団体での研究発表、学術雑誌への論文投稿をおこなう。								
授業計画表								
授業計画								
<p>研究指導は、以下の流れでおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究テーマの決定 2 研究方法論の検討 3 プレ実験での結果検討 4 実験中のデータの検討 5 結果と考察の検討 6 プレゼンテーション 7 論文作成 8 全体のまとめ 								
<p>なお、研究方法論が決定されたときに、関西医療大学 倫理委員会へ倫理審査書類を提出し、承認後に研究を開始する。</p>								
成績の評価								
研究への取り組み度合い、授業や発表会でのプレゼンテーションを総合的に評価する。								
自己学習								
授業に関するコメントを対応できるようにICTに関する知識を積極的に勉強する。								
オフィスアワー								
金曜日：12：30～13：00								
E-mail								

研究室・授業用

4号館 7階 D714研究室 k.morimoto@kansai.ac.jp